

I 農 林 技 術 研 究 所

茶業研究センター

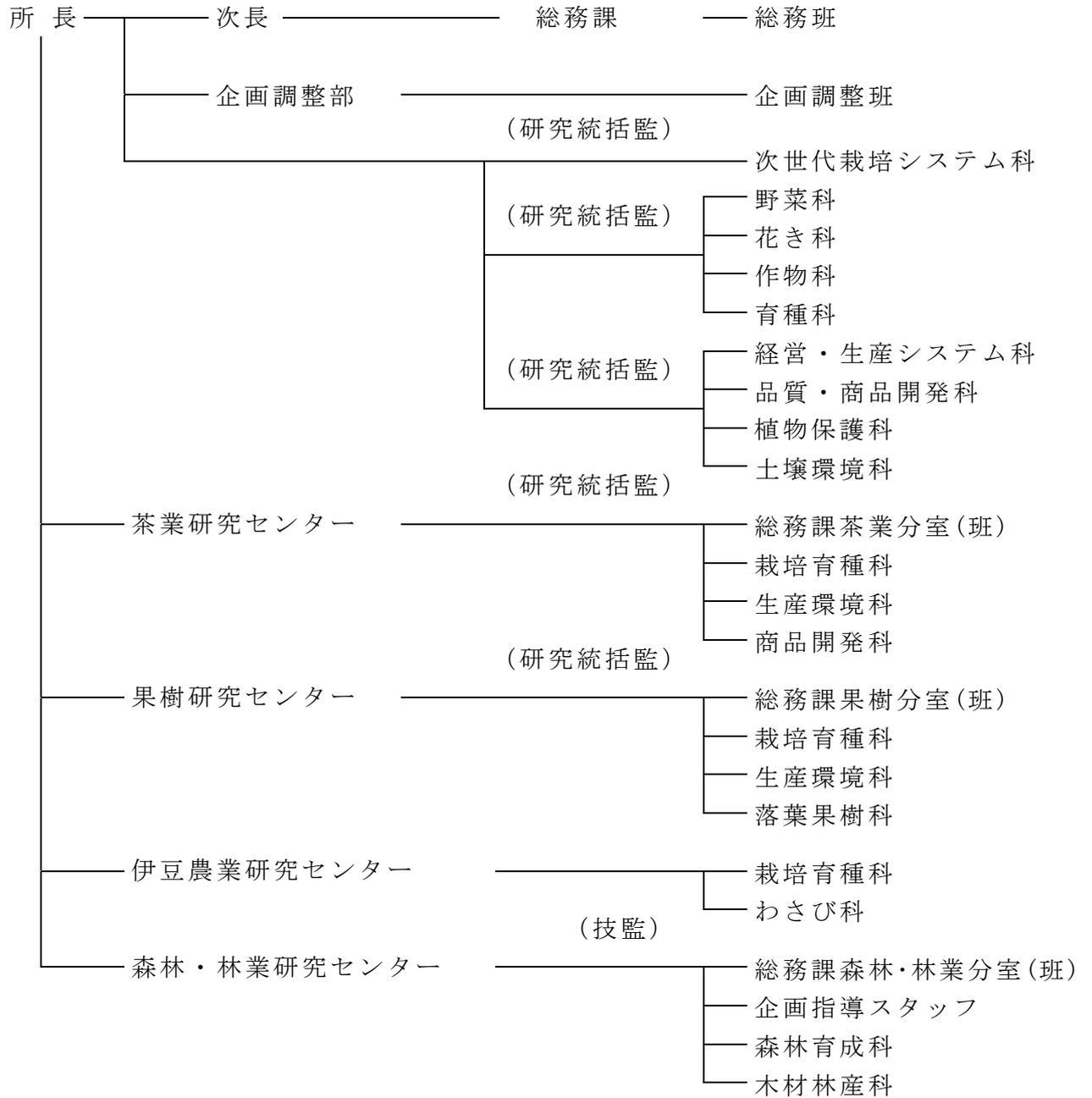
果樹研究センター

伊豆農業研究センター

森林・林業研究センター

I 農林技術研究所

1 試験研究組織



2 試験研究職員構成

区 分		事務 職員	技術職員		技能労務 職員	計
			研 究	行 政		
所長				1		1
次長		1				1
総務課	総務班	6 ②				6 ②
	研究統括監		3			3
企画調整部	部長		1			1
	専門監			1		1
	企画調整班	③		2	8 [2] ⑱	10 [2] ㉑
(本所)	次世代栽培システム科		2			2
	野菜科		4			4
	花き科		4			4
	作物科		5			5
	育種科		4			4
	経営・生産システム科		4			4
	品質・商品開発科		4			4
	植物保護科		5			5
	土壌環境科		3	1 [1]		4 [1]
	計	7 ⑤	39	5 [1]	8 [2] ⑱	59 [3] ㉓
茶業研究センター	センター長			1		1
	研究統括監		1			1
	総務課茶業分室	3 ①			2 [1] ⑤	5 [1] ⑥
	栽培育種科		6			6
	生産環境科		5			5
	商品開発科		4	1 [1]		5 [1]
		計	3 ①	16	2 [1]	2 [1] ⑤
果樹研究センター	センター長		1			1
	研究統括監		1			1
	総務課果樹分室	3			④	3 ④
	栽培育種科		6			6
	生産環境科		5			5
	落葉果樹科		4		1 [1]	5 [1]
		計	3	17	1 [1] ④	21 [1] ④
伊豆農業研究センター	センター長		1			1
	栽培育種科	①	5		2 [1] ③	7 [1] ④
	わさび科	①	3		①	3 ②
		②	9		2 [1] ④	11 [1] ⑥
森林・林業研究センター	センター長			1		1
	技監			1		1
	総務課森林・林業分室	3			1 ②	4 ②
	企画指導スタッフ			1		1
	森林育成科		8			8
	木材林産科		5			5
		計	3	13	3	1 ②
合 計		16 ⑧	94	10 [2]	14 [5] ㉓	134 [7] ㉑

(注) [] は再任用職員で内数、○は非常勤嘱託職員で外数。病虫害防除所は除く。

3 試験研究方針（平成26年度～平成29年度）

農林業を巡る環境

●社会経済情勢

- ・国際化の進展と新興国の経済発展
- ・少子高齢化による人口減少社会の進展
- ・ライフスタイルと価値観の多様化

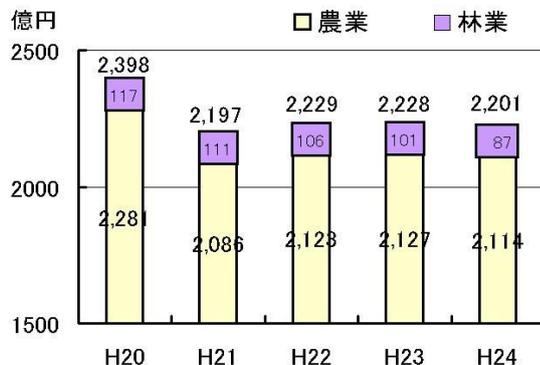
●流通・消費環境

- ・販売・流通形態の変化
- ・食の安全・安心への関心の高まり
- ・中食・外食など食の外部化の進展
- ・6次産業化による新商品開発の実施

●生産構造

- ・農業従事者の高齢化と担い手の減少
- ・耕作放棄地や荒廃森林の増加
- ・資材価格の上昇による農林家経営の悪化
- ・ICT、ロボット化の進展
- *農業生産に占めるビジネス経営体シェア
24.8% (H23)
- *森林組合等での施業・生産の集団化進展

＜農林業産出額の推移（億円）＞



●環境保全・省資源

- ・地球温暖化の進行
- ・茶草場の世界農業遺産登録
- ・再生可能な資源・エネルギー活用の必要性

農林業の振興方向

経済産業ビジョン（農業・農村編）

基本方向Ⅰ 「場の力」を活用した地域経済の活性化

- 1 人々を惹きつける都づくり
 - ・「食の都」、「茶の都」、「花の都」づくり
 - ・ふじのくにブランドの推進
- 2 ふじのくにブランドを活かした戦略的な海外展開
 - ・農林水産物の輸出促進
 - ・輸出に向けた産地の取組支援
- 3 6次産業化による高付加価値化の推進
 - ・支援体制の強化
 - ・事業者の取組への支援

基本方向Ⅱ 豊かさを支える農業の強化

- 1 攻めの農業を担うチャレンジ精神あふれる経営体の育成
 - ・ビジネス経営体の育成
 - ・企業参入の推進 等
- 2 優良農地の確保と集積等による農地の徹底活用
 - ・水田の有効利用 等
- 3 技術革新による生産力の飛躍的拡大
 - ・高品質化・省力化・低コスト化による生産性向上
 - ・新技術の開発と普及
 - ・優良品種の開発導入 等

基本方向Ⅲ 住んでよし訪れてよし豊かな農山村づくり

- 1 集落機能の維持・向上による農山村の再生
 - ・地域資源の保全と活用 等
- 2 快適な農山村の暮らしの実現
 - ・農山村における安全・安心の確保 等
- 3 都市農村交流の促進
 - ・農業の持つ多様な価値の活用 等

経済産業ビジョン（林業・木材産業編）

基本方向 豊かさを支える林業の強化

- 1 県産材の需要と供給の一体的な創造
 - ・県産材の需要拡大
 - ・県産材の安定供給体制の確立
 - ・ビジネス林業の展開

試験研究展開の基本方向

試験研究の推進方向

I 「場の力」を活用した地域経済の活性化

- 地域特産の農林産物の発掘・改良、これを素材とした商品や加工技術の開発
- 効果的な商品プロモーションを可能にする栽培技術の開発・高度化
- 機能性成分の高い農林産物の開発、加工品及び加工技術の開発
- 新たな需要を創造する加工適性に優れた農林産物の開発、加工技術の開発
- 耐久性や機能性に優れた県産木材・木質材料の開発

II 豊かさを支える農林業の強化

- 高収益を生む本県独自の高品質な品種や地球温暖化に適応した品種の育成
- 低コスト、省力技術を体系化した農林産物の高効率栽培管理技術の開発
- 地球温暖化に適応した栽培管理技術の開発
- 高品質な商品の流通を実現する生産・加工・流通段階での品質管理技術の開発
- 二毛作、輪作、耕畜連携等による農地の高度利用システムの開発
- 集積された農地を利用した収益性の高い農業経営モデルの開発
- 森林施業の集約化や路網整備等による効率的な林業経営モデルの開発

III 住んでよし訪れてよし豊かな農山村づくり

- 生態系の保全とバランスを取った病害虫防除技術の開発
- 省資源・省エネルギーで廃棄物を最小限に抑えた新時代のものづくり技術の開発
- エネルギーの地産地消に向けた再生可能エネルギーの利用技術の開発
- 農山村資源の公益的機能を有効活用した生産基盤の維持管理システムの開発
- 快適な森林・河川・内水面・海域等を形成する環境管理技術の開発
- 美しい景観形成のための花き、草木等の活用・管理技術の開発
- 野生鳥獣被害防止技術、適正な生態系を維持するための動植物の管理技術の開発

平成29年度 農林技術研究所（本所） 試験研究課題一覧

《試験研究の推進方向》

《試験研究の推進方向》

《 研究 課 題 》

「場の力」を活用した地域経済の活性化
[3 課題]

地域特産の農林産物の発掘・改良、これを素材とした商品や加工技術の開発
[2 課題]

効果的な商品プロモーションを可能にする栽培技術の開発・高度化
[1 課題]

高収益を生む本県独自の高品質な品種や地球温暖化に適応した品種の育成
[5 課題]

低コスト、省力技術を体系化した農林産物の高効率栽培管理技術の開発
[7 課題]

豊かさを支える農林業の強化
[18 課題]

地球温暖化に適応した栽培管理技術の開発
[3 課題]

高品質な商品の流通を実現する生産・加工・流通段階での品質管理技術の開発
[2 課題]

集積された農地を利用した収益性の高い農業経営モデルの開発
[1 課題]

住んでよし訪れてよし豊かな農山村づくり
[8 課題]

生態系の保全とバランスを取った病害虫防除技術の開発
[5 課題]

省資源・省エネルギーで廃棄物を最小限に抑えた新時代のものづくり技術の開発
[2 課題]

農山村資源の公益的機能を有効活用した生産基盤の維持管理システムの開発
[1 課題]

- 1 [成] 食の都しずおかの微生物を用いた新しい発酵食品ビジネスの創出(27-29) <共>
- 2 [成] 健康長寿静岡の新たな機能性食品産業の創出(28-30) <共>
- 3 (新) AOIプロジェクトを推進する革新的栽培技術の開発(29-33) <交> <委>
- 4 水稻の新品種育成(28-32)
- 5 省力・低コスト生産が可能な次世代に向けたイチゴ優良母本の育成(28-32)
- 6 (新) 極早生タマネギの育種と生態調明(29-33)
- 7 (新) 黄色輪ギクの新品種育成(29-33)
- 8 水稻・畑作物奨励品種決定試験(28-32)
- 9 イチゴ‘さらび香’の安定生産技術の確立(27-29)
- 10 [成] 高品質な大規模施設野菜生産を可能にする成育情報活用型スマートアグリシステムの開発(27-29) <共>
- 11 (新) [成] 移動及び運搬作業を無人化する農業用自律走行ロボットの開発(29-31) <共>
- 12 小麦作の強害雑草ネズミギによる被害の把握とその防除技術の確立(28-31) <委> <共>
- (13) [成] 無人航空機による樹園地の超省力・精密生産管理システムの開発(28-30)
- (14) キウイフルーツ・ナシ安定生産のための花粉自給率向上に繋がる省力・低コスト花粉採取技術の開発(28-30) <委> <共>
- 15 農作物品種及び生産資材の比較、検定、調査(29) <受>
- 16 トマトの周年生産における生理障害発生防止技術の確立(28-30) <委> <共>
- 17 (新) レタス安定出荷のための収穫予測技術の開発(29-31)
- 18 夏冬を制する技術開発が花き経営の所得を増加させる(28-30) <委> <共>
- 19 本県特産花きの日持ち向上対策技術の確立(28-30) <受>
- 20 [成] ふじのくに農水産物の品質・競争力向上と輸出拡大技術の開発(28-30) <委> <共>
- 21 (新) ビジネス経営体の発展過程の解明による育成支援策の提案(29-31)
- 22 蒸気処理防除機の活用による水田の病害虫・雑草等管理技術の確立(27-29) <共>
- 23 施設園芸作物における進化型 IPM を構成する要素技術の開発(26-30) <委> <共>
- 24 圃場の健康診断に対応したネギ病害虫予防的管理技術の開発(28-30)
- 25 難防除病害虫の防除効果安定化とイチゴ果実の輸出促進に向けた I P M 体系の確立(28-30) <委> <共>
- 26 新しい農薬の適応選抜(29) <受>
- 27 牛ふん堆肥ベースの新肥料および土壌中蓄積窒素の活用による効率的施肥管理技術の開発(27-31) <委> <共>
- 28 (新) メタン発酵消化液の農作物への利用技術の開発(29-31) <受>
- 29 県内主要農耕地の土壌環境及び土壌炭素モニタリング調査(26-30) <委>

(新)：新規課題、[成]：新成長戦略研究、<委>：国庫委託、<助>：国庫補助、<交>：国庫交付金、<受>：受託事業、<共>：共同研究

平成29年度 農林技術研究所（茶業研究センター） 試験研究課題一覧

《試験研究の展開の基本方向》 《試験研究の推進方向》 《 研究 課 題 》

「場の力」を活用した地域経済の活性化
[4 課題]

新たな需要を創造する加工適性に優れた農林水産物の開発、加工技術の開発
[4 課題]

- 1 (新) [成] 静岡抹茶の生産拡大に向けたてん茶安定生産技術の開発 (29-31)
- 2 [成] 健康長寿静岡の新たな機能性食品産業の創出 (28-30)
- 3 [成] ふじのくに農水産物の品質・競争力向上と輸出拡大技術の開発 (28-30) 〈共〉
- 4 (新) 静岡の香りに特色ある茶の品質評価・香味改善に関する研究 (29-31)

高収益を生む本県独自の高品質な品種や地球温暖化に適応した品種の育成
[4 課題]

- 5 新品種の育成 (28-32)
- 6 品種の選定 (28-32) 〈委〉
- 7 チャ育成地育成系統の地域評価試験 (26-30) 〈委〉 〈共〉
- 8 品種茶利用促進のための特性解明 (27-31)

豊かさを支える農林業の強化
[9 課題]

低コスト、省力技術を体系化した農林産物の高効率栽培管理技術の開発
[4 課題]

- (9) (新) [成] 移動および運搬作業を無人化する農業用自律走行ロボットの開発 (29-31)
- (10) [成] 無人航空機による樹園地の省力化・精密生産管理システムの開発 (28-30)
- 11 メタン発酵消化液を利用した茶施肥管理技術の開発 (28-30) 〈受〉
- 12 茶草施用が樹体に与える影響 (28-29) 〈委〉

高品質な商品の流通を実現する生産・加工・流通段階での品質管理技術の開発
[1 課題]

- 13 被覆茶需要に応える簡易な樹体診断法と効率的被覆作業による高品位安定生産体系の確立 (27-29) 〈委〉 〈共〉

住んでよし訪れてよし豊かな農山村づくり
[6 課題]

生態系の保全とバランスを取った病害虫防除技術の開発
[6 課題]

- 14 ハマキガ類の殺虫剤抵抗性機構の解明と抵抗性診断技術の開発 (26-30) 〈委〉 〈交〉 〈共〉
- 15 省力的かつ効率的なチャ病害虫防除技術の確立 (28-30) 〈交〉
- 16 茶における輸出相手国の残留農薬基準値に対応した防除技術の開発 (28-32) 〈受〉 〈共〉
- 17 日本茶（一番茶）の海外輸出を可能とする病害虫防除体系の構築と実証 (28-30) 〈受〉 〈共〉
- 18 新農薬実用化試験 (29) 〈受〉
- 19 新農薬・新肥料及び新資材等の効果確認及び使用法の検討 (29) 〈受〉

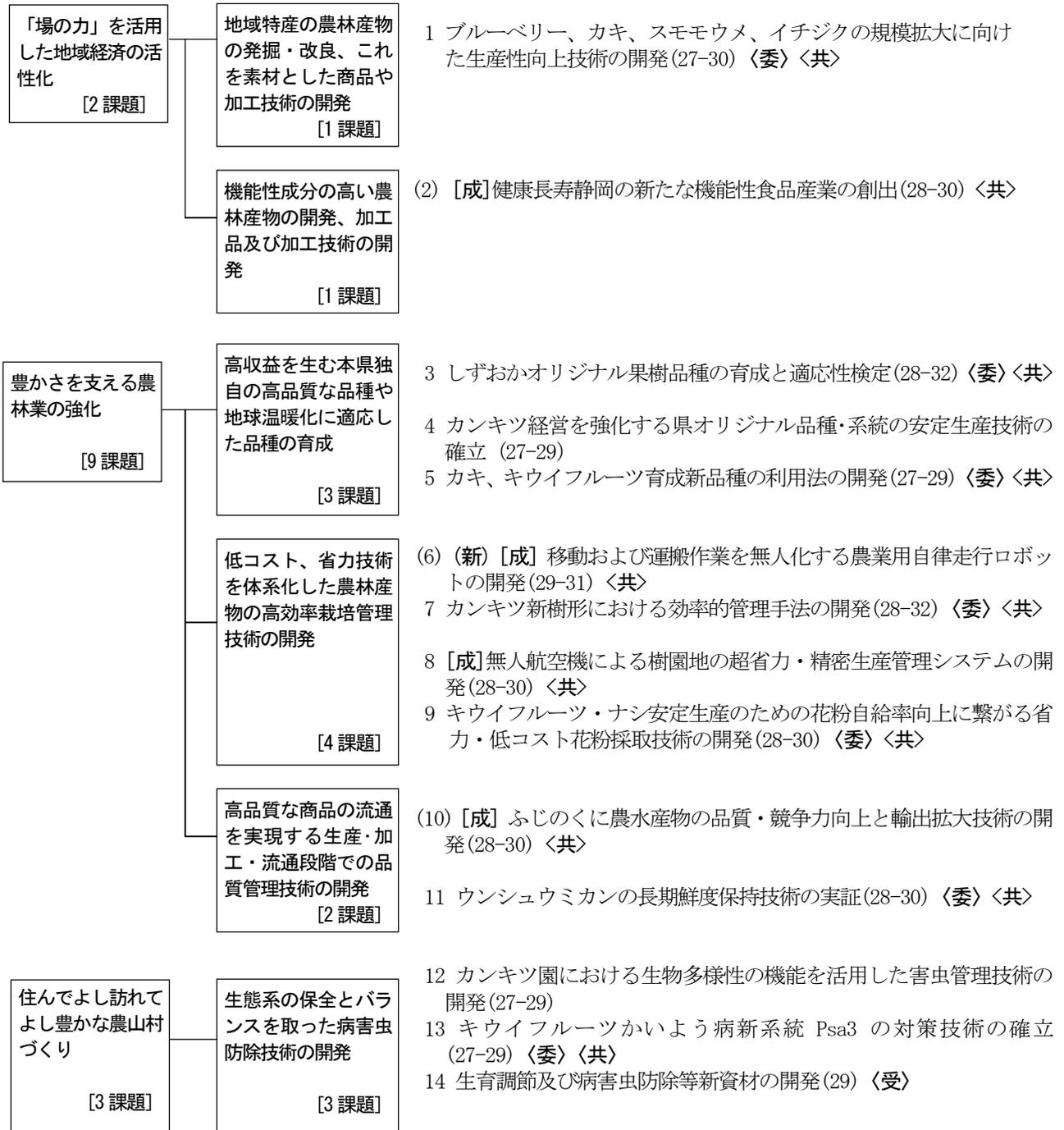
(新)：新規課題、[成]：新成長戦略研究、〈委〉：国庫委託、〈助〉：国庫補助、〈交〉：国庫交付金、〈受〉：受託事業、〈共〉：共同研究

平成29年度 農林技術研究所（果樹研究センター）試験研究課題一覧

《試験研究の基本方向》

《試験研究の推進方向》

《 研究 課 題 》



(新) : 新規課題、[成] : 新成長戦略研究、〈委〉 : 国庫委託、〈補〉 : 国庫補助、〈交〉 : 国庫交付金、〈受〉 : 受託事業、〈共〉 : 共同研究

平成29年度 農林技術研究所（伊豆農業研究センター） 試験研究課題一覧

《試験研究の基本方向》

《試験研究の推進方向》

《 研究 課 題 》

「場の力」を活用した地域経済の活性化
[6 課題]

地域特産の農林産物の発掘・改良、これを素材とした商品や加工技術の開発
[2 課題]

ふじのくにブランドとして高収益を生む本県独自の高品質な品種や地球温暖化に適応した品種の育成
[4 課題]

豊かさを支える農林業の強化
[2 課題]

地球温暖化に適応した栽培管理技術の開発
[2 課題]

住んでよし訪れてよし豊かな農山村づくり
[1 課題]

生態系の保全とバランスを取った病害虫防除技術の開発
[1 課題]

- 1 (新) カワヅザクラ切り枝等伊豆特産作物の栽培技術の開発 (29-31) 〈委〉〈共〉
- (2) [成]健康長寿静岡の新たな機能性食品産業の創出 (28-31) 〈共〉
- 3 夏期の高温化に適応したカーネーション新品種の育成選抜と栽培技術の開発 (28-32)
- 4 マーガレット新品種育成と伊豆特産花きの生育特性の解明 (28-32) 〈委〉〈受〉〈共〉
- 5 伊豆の多様な販売形態に利用できる果樹品種の選抜 (28-32)
- 6 ワサビ新品種育成と系統選抜 (28-32) 〈委〉〈共〉
- 7 ヒュウガナツ系新品種の導入と生産安定技術の体系化 (27-29)
- 8 ワサビ種苗の安定的生産供給体制の確立 (28-30)
- 9 農作物品種及び生産資材の比較、検定、調査(29) 〈受〉

(新)：新規課題、[成]：新成長戦略研究、〈委〉：国庫委託、〈補〉：国庫補助、〈交〉：国庫交付金、〈受〉：受託事業、〈共〉：共同研究

平成29年度 農林技術研究所（森林・林業研究センター） 試験研究課題一覧

《試験研究展開の基本方向》

《試験研究の推進方向》

《 研 究 課 題 》



(新)：新規課題、[成]：新成長戦略研究、<委>：国庫委託、<助>：国庫補助、<交>：国庫交付金、<受>：受託事業、<共>：共同研究

4 平成29年度試験研究課題数

区 分		研究課題数 ^{注1,2)}		細目課題数	
			内新規		内新規
	次世代栽培システム科	1	1	3	3
	野菜科	4	1	13	2
	花き科	2	0	4	0
	作物科	4	0	9	0
	育種科	3	2	7	5
	経営・生産システム科	5 (2)	2	10	6
	品質・商品開発科	2 [1]	0	4	0
	植物保護科	4	0	13	0
	土壌環境科	4	1	11	3
(本所)	計	29(3)[1]	7	74	19
茶業研究センター	栽培育種科	8 (2)	2 (1)	15	3
	生産環境科	10 (2)	0	27	0
	商品開発科	1	1	3	3
	計	19 (2)	3 (1)	45	6
果樹研究センター	栽培育種科	6 (3)	1 (1)	12	1
	生産環境科	5	0	10	0
	落葉果樹科	3	0	7	0
	計	14 (3)	1 (1)	29	1
伊豆農業研究センター	栽培育種科	7 (1)	1	17	3
	わさび科	2	0	6	0
	計	9 (1)	1	23	3
森林・林業研究センター	森林育成科	6	0	12	0
	木材林産科	5	2	9	4
	計	11	2	21	4
農林技術研究所全体		72[1]	12	192	33
平成28年度		68[2]	29	188	83

※ 平成29年度新成長戦略研究課題数 (内数)

区 分		研究課題数 ^{注1,2)}		細目課題数	
			内新規		内新規
	本所	6 (1) [1]	1	14	4
	茶業研究センター	5 (4)	2 (1)	10	3
	果樹研究センター	4 (3)	1 (1)	7	1
	伊豆農業研究センター	1 (1)	0	1	0
	森林・林業研究センター	2	1	4	2
農林技術研究所全体		9 [1]	3	36	10
平成28年度		1 [2]	3	41	18

注₁) () は、1つの研究課題を本所及び研究センター共同で実施している場合の連携機関としての研究課題数で、内数で記載。

注₂) [] は、1つの研究課題を複数の研究所間で実施している場合の連携機関としての研究課題数で、内数で記載。

5 平成29年度試験研究課題

(1) 本所

農林技術研究所(本所) No.1

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
農業一般 (野菜) (特選野菜)	「場の力」を活用した地域経済の活性化	1 食の都しずおかの微生物を用いた新しい発酵食品ビジネスの創出 〈共〉	(27-29)	本県の有用微生物を様々な産業で有効活用できる仕組みを構築する。	品質・商品開発科 (池ヶ谷篤、豊泉友康、中寫輝子) 〈共〉 沼工技(主)、工技研、畜技研、水技研、環衛研、他	経済産業部	県単 (新成長)
		1-1 「食の都しずおか有用微生物ライブラリー」の構築〈共〉	27-29	・微生物の特性や利用法を明らかにしたライブラリーを構築するため、農産物等から乳酸菌や酵母を単離する。			
		1-2 消費者ニーズに対応した「食の都しずおか」発の新規発酵食品開発 〈共〉	27-29	・酵母の特性評価から発泡力の高い酵母を選抜し、製パン適性を検討する。 ・新規発酵食品の味や香りの特性を明らかにするため、適正な評価ができる検査員(味覚と嗅覚が正常)を選抜する。併せて、GC-MSによる香り成分の分析法を明らかにし、良好な風味に係わる“香り”を推定する。			
農業一般 (野菜) (特選野菜)	「場の力」を活用した地域経済の活性化	2 健康長寿静岡の新たな機能性食品産業の創出〈共〉	(28-30)	本県食品関連産業を活性化し、「ふじのくに静岡の経済発展」と「健康増進」を推進するため、本県の豊かな農林水産物が持つ機能性を活かした研究を実施する。	品質・商品開発科(主) (中寫輝子、大場聖司、豊泉友康) 〈共〉 工技研、畜技研、水技研、環衛研、他	経済産業部	県単 (新成長)
		2-1 本県農林水産物の機能性データベースの構築〈共〉	28-30	・県の5研究機関の分野横断的な取り組みによって多様な農水産物の機能性情報を網羅したデータベースを構築する。			
		2-2 機能性表示制度を目指した商品開発〈共〉	28-30	・農林水産物や加工品の高付加価値化、機能性表示制度を活用した新商品開発など「出口」を見据えた研究開発を行う。			
農業一般 (野菜) (特選野菜)	「場の力」を活用した地域経済の活性化	3 AOIプロジェクトを推進する革新的栽培技術の開発	(29-31)	プロジェクト参画事業者の研究開発を促進するため、植物の環境応答解析を行い、革新的栽培技術を開発する。	次世代栽培システム科(大石直記、貫井秀樹、佐藤陽介) 品質・商品開発科 (中寫輝子、大場聖司) 植物病害科(片山晴喜) 他	農業戦略課	国交付金 (地方創生推進交付金)
		3-1 環境条件と植物の成育との関係解明 〈交〉〈委〉	29-31	・植物成育の指標となる生体情報評価法を確立し、環境条件と植物の成育速度等との関係を解明する(トマト等)。			
		3-2 環境状況と植物の機能性と関係解明 〈交〉	29-31	・機能性成分の効率的な分析技術を確立し、環境条件と植物の機能性成分との関係を解明する(ケール等)。			
		3-3 革新的栽培技術の開発〈交〉〈委〉	29-31	・植物の環境応答解析に基づき、高機能化・高能率化等が可能な革新的栽培技術を確立する(アブラナ科野菜等)。			

〈新〉:新規課題 〈助〉:国庫補助 〈委〉:国庫委託 〈交〉:国庫交付金 〈受〉:受託 〈共〉:共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
作 物 (水 稻) (育 種)	豊かさを支える農林業の強化	4 水稻の新品種育成	(28-32)	本県の気象・地域条件に適し地域特産ブランドとなりうる品種を育成する。	作物科 (外山祐介、宮田祐二)	中遠農林事務所他	県単
		4-1 酒造好適米品種等地域特産型品種の育成	28-32	・酒造好適米等の地域産業や消費と密接に結びつき特産ブランド化が期待できる品種を育成する。			
		4-2 野菜後作に適し、高温登熟性に優れた品種の育成	28-32	・水田の高度利用を可能にする野菜後作において高い栽培適性と高品質が両立する品種を育成する。			
野 菜 (イチゴ) (育 種)	豊かさを支える農林業の強化	5 省力・低コスト生産が可能な次世代に向けたイチゴ優良母本の育成	(28-32)	省力・低コスト生産が可能な次世代に向けたイチゴ新品種の育成に向けた育種母本を育成する。	育種科 (河田智明) 野菜科 (井狩徹)	経済連	県単
		5-1 多様な育種母本を活用した優良母本の育成	28-32	・自殖弱勢を排除するために、野茶研で育成中である循環選抜による育種母本等を活用し、その評価を行う。優良系統は交配親として使用し、‘きらび香’に強草勢、炭疽病抵抗性、等が付与された優良母本を育成する。			
		5-2 光合成能力の高い優良母本の育成	28-30	・光合成能力が高いとされる原種である <i>F.chiloensis</i> を交配親として選抜した育成系統を使用し、超多収性を有する優良母本を育成する。			
野 菜 (タマネギ) (育 種)	豊かさを支える農林業の強化	6 極早生タマネギの育種と生態解明<新>	(29-33)	有望個体同士の交配により、熟期、球の形状が均一なF1の有望系統を育成する。	育種科 (本間義之、藤川哲平) 野菜科 (坂口優子)	JAとぴあ浜松	県単
		6-1 交配親の収集と特性把握<新>	29-33	・生産者ごとに成熟期や形状等のばらつきが異なるため、交配親としての適性を把握するとともに、極早生タマネギの特性を解明する。			
		6-2 有望系統の早期育成方法の開発<新>	29-33	・有望な交配親系統を安定的に栄養繁殖する方法、並びに極播種した翌春に安定的に開花させる方法を開発する。			
		6-3 極早生の雄性不稔系統の育成と純度の向上<新>	29-33	・極早生の雄性不稔系統を得て、遺伝的な純度を向上させ、有望親同士のF1の特性を調査する。			

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
花 き (キ ク) (育 種)	豊かさを支える農林業の強化	7 黄色輪ギクの新品種育成<新>	(29-33)	低温期に優れた伸長性・開花性を有する輪ギクオリジナル品種を育成し、本県産キクの市場性向上と経営安定を図る。	育種科 (西岡奈々江、本間義之)	JAとぴあ浜松	県単
		7-1 輪ギク実生優良系統の選抜<新>	29-33	・交配育種により、低温伸長性・開花性を有し、到花日数の短い本県オリジナルの黄色輪ギク有望品種を育成する。また、将来の育種に備え、省力性、多収性等特性に特徴のある優良素材を選抜する。			
		7-2 輪ギク育成系統の特性と現地適応性の検定<新>	29-33	・主特性(栽培特性、生育・開花の揃い、切り花品質等)を明らかにする。また、優良系統については早い段階で現地試験を行い、現地適応性を検定する。			
作 物 (水 稲・畑 作) (育 種)	豊かさを支える農林業の強化	8 水稲・畑作物奨励品種決定試験	(28-32)	水稲：作業分散や気象災害の回避のため熟期別、用途別に奨励品種を選定する。 小麦：用途別(麺用、パン用)に栽培適性に優れた奨励品種を選定する。	作物科 (白鳥孝太郎、松永真)	静岡県稲作研究会他	県単
		8-1 水稲奨励品種決定試験	28-32	・野菜後作における栽培に適した早生～中生熟期の高品質・良食味品種、栽培適性に優れた高品質な酒造好適米品種を重点に選定する。			
		8-2 畑作物奨励品種決定試験	28-32	・地域、年次変動が小さく栽培安定性と多収性に優れた麺用小麦品種と、給食用途のパン適性等に優れた品種を選定する。			
野 菜 (イチゴ) (経 営)	豊かさを支える農林業の強化	9 イチゴ‘きらび香’の安定生産技術の確立	(27-29)	新品種‘きらび香’の円滑な導入普及をすすめるための生産性、品質向上技術の開発と経営モデルの作成、品種保護のための識別技術開発、パッキングセンター効率化のための判別装置の実用化を図る。	野菜科 (井狩徹) 育種科(河田智明) 品質商品開発科(池ヶ谷篤) 経営生産システム科(長藤亮彦)	静岡経県済連、JA遠州夢咲、JA静岡岡市	県単
		9-1 生産性向上技術の開発	27-29	・CO2施用等環境制御による生産性向上と土耕における規模拡大のための栽培技術を確立する。			
		9-2 果実品質向上技術の開発	27-29	・低品質果実の発生防止策とCO2施用による食味向上技術を確立する。			
		9-3 パッキングセンターの効率化	27-29	・荷受判別装置の実用性向上と現地実証と併せて導入モデルを作成する。			
		9-4 生産規模別モデルの策定	27-29	・作型別の経営評価により組合わせモデルを作成し現地実証する。			
		9-5 品種識別技術の開発	27-29	・‘きらび香’の品種識別マーカーを開発するとともに簡易な品種識別方法を開発する。			

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
野 菜 (トマト、イチゴ) (栽 培)	豊かさを支える農林業の強化	10 高品質な大規模施設野菜生産を可能にする生育情報活用型スマートアグリシステムの開発<共>	(27-29)	ビジネス経営体や企業参入の促進により本県の特徴である高品質な野菜生産を持続的に発展させるため、新規就農や参入企業等でも高品質野菜の栽培管理を的確に判断できる生育情報活用型スマートアグリシステムを開発する。	野菜科 (今原淳吾、井狩徹、前島慎一郎)	農芸振興課	県単 (新成長)
		10-1 環境と植物の生育情報を取得できるセンサおよび無線ネットワークの開発<共>	27-28	・生育情報および環境情報を評価できるマルチセンサ(葉面積程度、日射、温・湿度、窓開度、等)を開発する。	9-1, 2, 3 <共> 農芸振興課、静岡大学情報学部ほか		
		10-2 センサデータの総合的解析による栽培管理の判断に有効な指標の開発<共>	27-28	・マルチセンサ取得データから養水分管理やCO2施用管理に役立つ要因を抽出・解析し、栽培管理に有効な「養水分吸収量」等を推定・評価するためのアルゴリズムを構築する。	9-3 <共> ベルファーム(株)		
		10-3 スマートアグリシステムの現地実証試験<共>	28-29	・開発した新たな管理指標を搭載したスマートアグリシステムを現地農業生産法人等に設置し、システムによる栽培管理の有効性を実証する。			
野菜・茶業・果樹 (レタス・茶カンキツ) (機械)	豊かさを支える農林業の強化	11 移動および運搬作業を無人化する農業用自律走行ロボットの開発<新>	(29-31)	ロボット(特に自律走行)の基盤技術を有する交通・運搬機械関連産業と農林技研が連携して、県内農業現場向けロボットを共同開発し早期実用化を図る。	経営・生産システム科 (山根俊、中村浩一、長藤亮彦、山崎成浩)	農業戦略課	県単 (新成長)
		11-1 露地野菜栽培用運搬ロボットの開発<新>	29-31	露地野菜栽培を対象に、収穫物の自動運搬や、作業者に自動追従走行できるロボットを開発する。	茶業研究センター、 果樹研究センター、 <共> 静岡県農業ロボット研究会他、		
		11-2 施設野菜栽培用自律走行作業補助ロボットの開発<新>	29-31	施設野菜栽培を対象に、大型施設内を自律走行する作業補助ロボットを開発する。			
		11-3 茶園用多目的ロボット走行体の開発<新>	29-31	茶園内を無人で自律走行し、摘採、防除、施肥等の作業ユニットを装着でき、多目的な使用を可能とするロボット走行体を開発する。			
		11-4 ロボットを活用する果樹園管理省力化技術の開発	29-31	追従型運搬ロボット等について、適合できる圃場条件を明らかにし、走行制御技術、樹園地管理技術を開発する。また、経営試算を行い、導入効果を明らかにする。			

<新>: 新規課題 <助>: 国庫補助 <委>: 国庫委託 <交>: 国庫交付金 <受>: 受託 <共>: 共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
(作 物) (畑 作)	豊かさを支える農林業の強化	12 小麦作の強害雑草ネズミムギによる被害の把握とその防除技術の確立<委><共>	(28-31)	小麦作において低収、品質低下をもたらしているネズミムギの被害をその発生頻度等から予測・査定し、被害を抑制する効果的なほ場管理技術と畦畔などは場周辺の管理技術を開発する。	作物科 (外山祐介、松永真) <共> 中遠農林事務所	静岡県中遠稲作研究会	国庫委託 「多収阻害要因の診断法及び対策技術の開発」
		12-1 ネズミムギによる雑草被害を早期に簡易査定できる指標の開発<委><共>	28-31	・ネズミムギの発生時期、頻度、生育経過等から小麦に及ぼす被害を予測・査定し、効果的な管理手法を選択する技術を開発する。			
		12-2 ネズミムギを低減するほ場管理技術の開発<委><共>	29-31	・ネズミムギを効果的に低減する、耕種的、化学的防除技術を開発する。			
		12-3 ほ場周辺部のネズミムギの効果的な防除技術の開発<委><共>	29-31	・ほ場内へネズミムギが侵入する経路となっている畦畔等のほ場周辺部における有効な防除技術を開発する。			
果樹・茶業 (柑 橘) (機 械)	豊かさを支える農林業の強化	13 無人航空機による樹園地の超省力・精密生産管理システムの開発	(28-30)	樹園地における無人航空機の利用技術を確立し、樹園地における農作業の省力・軽労働・低コスト化、かつ生産性を高める精密生産管理技術を開発する。	経営・生産システム科 (山根俊、中村浩一) 果樹研究センター	農芸振興課 ・お茶振興課	県 単 (新成長) 所内連携
		13-1 超省力化技術の開発	28-30	傾斜地の農作業のうち、重労働の農薬散布と施肥における無人航空機の利用技術を開発する。			
果 樹 (落葉果樹) (機 械)	豊かさを支える農林業の強化	14 キウイフルーツ・ナシ安定生産のための花粉自給率向上に繋がる省力・低コスト花粉採取技術の開発<共><委>	(28-30)	花粉の効率的採取法を目指した枝管理技術を開発すると共に、静電風圧式受粉機を開発することで花粉量を削減し、輸入花粉への依存度を下げる。	経営・生産システム科 (山根俊、中村浩一) 果樹研究センター <共> 埼玉県、(国)革新工学研他	静岡県落葉果樹振興協会	国庫委託 (農林水産業・食品産業科学研究推進事業) 所内連携
		14-1 静電風圧式受粉機の開発<共>	28-30	花粉量削減に向け、静電風圧式受粉機を開発する。			

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
その他 (共 通)	豊かさを支える農林業の強化	15 農作物品種及び生産資材の比較、検 定、調査<受>	(29)	試験研究機関として日常的、地域的に対応する事項で、単 年度あるいは課題化以前のもので、比較、検定調査が必要と なる試験研究的事項について検討する。	土壌環境科 野菜科 作物科	県肥料協会 等	受託
		15-1 農作物品種の比較、検定<受>	29	・新発表品種、既存品種・系統、新作物等の検討を行う。			
		15-2 肥料等の効果検定、調査<受>	29	・新開発肥料、土壌改良剤等の検定、調査を行う。			
		15-3 資材機械等の性能調査 <受>	29	・被覆材、新型機械、器具の調査を行う。			
野 菜 花 き (トマト) (栽 培)	豊かさを支える農林業の強化	16 トマトの周年生産における生理障害 発生防止技術の確立<委><共>	(28-30)	気化冷却や夜冷等の環境管理や養水分管理等によって生 理障害の発生を防止し、トマト周年生産の安定化を図る。	野菜科 (前島慎一郎、 今原淳吾) 育種科 (本間義之、藤 川哲平)	JA遠州夢咲 JA遠州中央	15-1 国庫委託 (農林水産 業・食品産業 科学技術研 究推進事業)
		16-1 温・湿度管理による生理障害の発 生防止<委><共>	28-30	・ Fog&ファン等による高温期の生理障害防止効果を検証 し温室の断熱強化を含めた低コスト高温対策技術を確立 する。			
		16-2 養水分管理による生理障害の発生 防止<委><共>	28-30	・気象変動や成育ステージに応じた養水分制御による生理障 害防止技術を確立する。			
		16-3 統合環境制御における生理障害の 発生防止<共>	28-30	・統合環境制御システムを導入した現地温室における温湿度 制御特性を解析し、生理障害の発生防止を図る。			
					15-1<共> 西日本農業研究 センター、東京 インキ他		15-2 国庫委託 (SIP オミ クス利用に よる新世代 栽培技術開 発)
					15-1,3 <共> 中部電力(株)		
					15-2 <共> 農研機構、理化 学研究所、横浜 市大、静岡大学 他		15-3 県単

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
野 菜 (レタス) (栽 培)	豊かさを支える農林業の強化	17 レタス安定出荷のための収穫予測技術の開発<新>	(29-31)	市場出荷者や契約出荷大規模生産法人から要望が高い、レタス収穫期及び収量の予測技術を開発する。	野菜科 (坂口優子) 育種科 (藤川哲平)	経済連、中遠農林事務所	県単
		17-1 収穫適期予測技術の開発<新>	29-31	・日平均気温を用いて収穫適期(葉齢等)予測モデルを開発する。			
		17-2 収穫量予測技術の開発<新>	29-31	・気温の他、日射量を変数に加え、垂直投影面積等から収穫量予測モデルを開発する。また結球開始時の判断については、17-1で得られた値を用いる。			
花 き (バラ・ガーベラ) (栽 培)	豊かさを支える農林業の強化	18 夏冬を制する技術開発が花き経営の所得を増加させる<委><共>	(28-30)	昼夜冷房等による夏期の高温対策技術ならびに断熱強化や変夜温管理等による冬期の省エネ対策技術の開発によりガーベラおよびバラの周年安定生産技術を確立する。	花き科 (外岡慎、岩崎勇次郎、梅田さつき、高橋由美香) <共> 西日本農業研究センター、東京インキ他	静岡県経済連、JAとぴあ浜松志太榛原農林	国庫委託(農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業)
		18-1 夏期の高温対策を中心とした生産性向上技術の開発<委><共>	28-30	・ミスト&ファン等による昼間の冷房や、新規多層断熱資材による効率的な夜間冷房など夏期の高温対策等による生産性向上技術を開発する。			
		18-2 冬期の省エネ対策技術の開発<委><共>	28-30	・新規多層断熱資材による断熱強化や、変夜温管理技術等を検討し、冬期の省エネ対策技術を開発する。			
花 き (クルクマ) (ガーベラ) (流 通)	豊かさを支える農林業の強化	19 本県特産花きの日持ち向上対策技術の確立<受><共>	(28-30)	花きの観賞時には高温低湿等の不良環境にさらされることが多々あり、不良環境に対応できる後処理技術を開発する。	花き科 (外岡慎、岩崎勇次郎、梅田さつき、高橋由美香) 17-2 <共> 県花き市場連合会 静岡市立静岡病院	静岡経権経済連、JAとぴあ浜松	受託
		19-1 本県特産花きの前処理技術の開発<受>	28-30	・日持ち技術が確立されていないクルクマの収穫後の取扱方法や、ガーベラの弁反り対策技術等を検討し、本県特産花きの前処理技術を確立する。			
		19-2 本県特産花きの後処理技術の開発<受><共>	28-30	・後処理剤組成の検討や、その応用によるメンテナンスフリー花の利用拡大により、高温や低湿度等、劣悪な観賞条件下における日持ち性を確保できる後処理技術を開発する。			

<新>: 新規課題 <助>: 国庫補助 <委>: 国庫委託 <交>: 国庫交付金 <受>: 受託 <共>: 共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
野 菜 (温室メロン、 イチゴ) (流通・加工 ・経営)	豊かさを支える農林 業の強化	20 ふじのくに農水産物の品質・競争力 向上と輸出拡大技術の開発<新><共>	(28-30)	本県の多彩な農水産物(茶、温室メロン、イチゴ、温州ミ カン、カツオブシ、キンメダイ等)を対象に、品質・競争力 の向上を図るとともに、積極的な輸出拡大を推進するための 技術開発を行う。	経営・生産シス テム科 (長藤亮彦、山 崎成浩) 品質・商品開発 科 (中寫輝子、大 場聖司、池ヶ谷 篤) 19-1,2 <共> 静岡県経済連、 静岡県温室農 協、水産技術研 究所	マーケティ ング課、農芸 振興課	県単 (新成長)
		20-1 輸出に適合した温室メロン・イチ ゴの品質・鮮度保持技術の開発 <新><共>	29-30	・温室メロンでは、海外の高級志向に適合した温室メロンの 熟度・香気制御技術を開発する。イチゴでは、果実がやわ らかく衝撃に弱いことから、果実の傷みがない輸送技術と 低コストな鮮度・品質保持システムを確立する。			
		20-2 本県産農芸品の輸出振興策の策定 と経済性評価<新><共>	28-30	・「ふじのくに農芸品」の中から輸出が期待できる農産物を 選択し、嗜好性や消費特性、需要期を解析し、新たな売り 込み方法を模索する。また、開発した技術の経済性を評価 する。			
その他 (共通) (経営)	豊かさを支える農林 業の強化	21 ビジネス経営体の発展過程の解明に よる育成支援策の提案 <新>	(29-31)	県内外の最先端な経営を実践している経営事例を解析し、 作目別の特徴を活かした経営発展モデルの提示や具体的な支 援策を提案する。	経営・生産シス テム科 (長藤亮彦、山 崎成浩)	農業戦略課、 農業ビジネ ス課、 農林事務所	県単
		21-1 ビジネス経営体への発展過程の解 析による作目別の制限要因の解明 <新>	29-31	県内の主要品目別に各経営発展段階における特徴と問題点 を解明するとともに、営農指導に活用できる経営支援ソフト を開発する。			
		21-2 人材育成・組織体制から見たビジネ ス経営体の経営安定化方策の解明 <新>	29-31	ビジネス経営体を対象に、経営の発展段階に応じた組織体制 の変化及び社員育成(人材育成)について解析する。			

<新>:新規課題 <助>:国庫補助 <委>:国庫委託 <交>:国庫交付金 <受>:受託 <共>:共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
作物 (水 稻) (病害虫)	住んでよし訪れてよし豊かな農山村づくり	22 蒸気処理防除機を活用による水田の病害虫・雑草等管理技術の確立<共>	(27-29)	蒸気処理防除機を活用し、もみ枯細菌病等の種子および残渣伝染性病害の抑制、スクミリンゴガイ等の防除、有機栽培等における雑草防除、採種圃の異品種混入防止を可能とする革新的な防除技術を確立する。	作物科 (松永真、白鳥孝太郎)	静岡県米麦協会、中遠農林事務所	県単
		22-1 蒸気処理による病害虫・雑草等死滅効果の検証<共>	27-28	・病害虫、雑草種子等に蒸気処理を行い、死滅効果を検証する。	<共> (株)丸文製作所		
		22-2 蒸気処理防除機による病害虫・雑草等管理技術の実証、確立<共>	27-29	・効果的な蒸気処理防除機を活用体系を検討するとともに、水田に蒸気処理防除機を導入して、病害虫・雑草等管理技術を実証、確立する。			
農業一般 (野菜) (病害虫)	住んでよし訪れてよし豊かな農山村づくり	23 施設園芸作物における進化型IPMを構成する要素技術の開発<委><共>	(26-30)	環境の変化に対応した進化型IPMを構築するため、新たな防除手段による要素技術を開発する。	植物保護科 (伊代住浩幸、土井誠、中野亮平、斉藤千温、片山晴喜)	JA 中央会、JA とびあ浜松、JA 遠州夢咲、温室農協	22-1 国庫委託 (SIPトマト地上部)
		23-1 トマトの天敵利用を核とした黄化葉巻病抑制要素技術の開発<委><共>	26-30	・黄化葉巻病を媒介するタバココナジラミの新たな天敵などの利用による防除法を開発する。			20-2 県単
		23-2 メロン害虫の光特性と天敵を利用したIPM要素技術の開発	26-30	・大型施設で、物理的防除技術として開発が進むLED光と天敵を利用したミナミキイロアザミウマ防除の実用技術を開発する。	22-1 <共> 中央農研、宮崎大他		22-3 国庫委託 (農林水産省委託プロジェクト研究)
		23-3 紫外線の活用によるイチゴ病害虫同時防除を目指したIPM要素技術の開発<委><共>	26-30	・一部病害への効果が確認されている紫外線照射を虫害防除まで対象を広げた汎用技術としての活用を検討する。 ・ハダニの薬剤抵抗性の実態を解析し、生物的防除法や物理的防除法を取り込んだ薬剤抵抗性発達抑制システムを構築する。	22-3 <共> 京都大、奈良県他		22-4 国庫委託 (SIPイチゴ体系化)
		23-4 イチゴ栽培におけるIPM要素技術の体系化<委><共>	29-30	・当所で開発した赤色LEDアザミウマ被害制御技術を中心に各種IPM要素技術を組み込んだ防除体系を確立し、実用性を検証する。	22-4 <共> 中央農研、他		

<新>:新規課題 <助>:国庫補助 <委>:国庫委託 <交>:国庫交付金 <受>:受託 <共>:共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
野 菜 (シロネギ・ 葉ネギ) (病害虫)	住んでよし訪れてよ し豊かな農山村づく り	24 圃場の健康診断に対応したネギ病害 虫予防的管理技術の開発	(28-30)	ネギ属作物において問題となっている土壌病害やアザミ ウマ等を防止するため、ほ場の土壌病害発生リスクに対応し た病害虫の総合的防除マニュアルを開発する。	植物保護科 (伊代住浩幸、 斉藤千温、土井 誠、中野亮平、 片山晴喜) 土壌環境科 (若澤秀幸、内 山道春、中村明 弘、福島務)	中遠農林、西 部農林、JA とぴあ 浜松、JA遠州 中央	県単
		24-1 シロネギでの黒腐菌核病発病レ ベルに対応した予防的防除技術の 開発	28-30	・既存成果の黒腐菌核病総合防除マニュアル内のリスクごと に使用する防除対策メニューについて、これらの処理効果 向上のため土壌管理を含めた総合的防除技術の開発を行な う。			
		24-2 葉ネギでの病害虫発生レベルに対 応した予防的防除技術の開発	28-30	・ネギアザミウマ等の害虫の光照射、天敵による防除法の開 発し、総合防除体系を確立する。			
野 菜 (イチゴ) (病害虫)		25 難防除病害虫の防除効果安定化と イチゴ果実の輸出促進にむけた I P M体系の確立<委><共>	(28-30)	イチゴのハダニ類やうどんこ病は薬剤防除が困難である。 また、海外輸出には相手国の農薬残留基準値をクリアする必 要がある。そこで、イチゴにおける減農薬体系を確立する。	植物保護科 (片山晴喜、土 井誠、伊代住浩 幸、斉藤千温、 中野亮平) <共> 農研機構、宮城 県、徳島県、香 川県他	静岡県経済 連	国庫委託 (革新的技 術・緊急展 開事業・地 域戦略)
		25-1 育苗期における農薬代替技術の 確立<委><共>	28-29	・親株から定植までの苗生産において、難防除病害虫に対す る農薬代替技術を確立し、難防除病害虫混入リスクが低い 苗生産技術を確立する。			
		25-2 難防除病害虫および輸出に適 したイチゴ生産の IPM メニュー化 <委><共>	28-30	・育苗期の非農薬防除技術に加えて、定植後の生物的、物理 的防除、薬剤防除等を体系化し、難防除病害虫対策および 生果実輸出に対応したメニュー方式の総合的防除体系を確 立する。			
		25-3 輸出に適した難防除病害虫防除 体系の現地実証<委><共>	29-30	・難防除病害虫の IPM の現地実証を行い、防除効果とイチゴ 生果実が輸出相手国の残留農薬基準値をクリアするか検証 する。			

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
その他 (共 通) (病害虫)	住んでよし訪れてよし豊かな農山村づくり	26 新しい農薬の適応選抜<受> 26-1 殺菌、殺虫剤 <受> 26-2 除草剤 <受> 26-3 生育調節剤 <受> 26-4 農薬残留分析試料調製 <受>	(29) 29 29 29	新しい農薬の病害、虫害、雑草等に対する効果の検討及び安全性を検討するための試料調製を行う。 ・環境に及ぼす影響が少ない薬剤について病害虫に対する防除効果、安全な使用法を検討する。 ・農作地の雑草に有効な除草剤を選抜、安全な使用法を検討する。 ・農作物に有効な生育調節剤を選定し、安全な使用法を検討する。 ・環境保全、安全食糧の確保に資するため、農薬安全使用基準策定のための試料を得る。	各 科	JA、植物防疫協会	受託
(野 菜) (共 通) (土壌肥料)	住んでよし訪れてよし豊かな農山村づくり	27 牛ふん堆肥ベースの新肥料および土壌中蓄積窒素の活用による効率的施肥管理技術の開発<委><共> 27-1 牛ふん堆肥をベースとした新肥料の製造と利用法の開発<委><共> 27-2 土壌消毒による土壌中窒素無機化量の把握	(27-31) 27-31 27-29	堆肥と化学肥料等を混合して成分調整した新肥料を開発するとともに、土壌消毒時における土壌蓄積窒素の動態を解明し、効率的な施肥管理技術を開発する。 ・牛ふん堆肥と化学肥料等を混合し、葉菜類向けに成分調整した新肥料(混合堆肥複合肥料)の製造条件、肥効調査、栽培実証試験を行い、効率的な施肥管理技術を開発する。 ・施設栽培において堆肥連用により蓄積した土壌中窒素からの、土壌消毒による無機化量を簡易に把握する方法を検討し、施肥窒素量を削減する技術を開発する。	土壌環境科(中村明弘、福島務、若澤秀幸、内山道春) 26-1<共> (株)ホーチアグリコ 九州沖縄農研セ他	地域農業課、西部農林中遠農林志太榛原農林	26-1 国庫委託「生産コストの削減に向けた有機質資材の活用技術の開発」 26-2 県単
農業一般 (野 菜) (土壌肥料)	住んでよし訪れてよし豊かな農山村づくり	28 メタン発酵消化液の農作物への利用技術の開発<新><受> 28-1 メタン発酵消化液の利用に適した作物の検索<新><受> 28-2 メタン発酵消化液の露地栽培への利用技術<新><受> 28-3 メタン発酵消化液の養液栽培への利用技術<新><受>	(29-31) 29-30 29-31 29-30	メタン発酵消化液は、窒素等の肥料成分を含んでいるが、その大部分が利用されずに浄化処理されている。そこで、消化液の作物や土壌に対する影響を明らかにし、効果的な施用手法を開発する。 ・種々の野菜の幼植物試験等を実施し、消化液が液肥として使用可能な作物を明らかにする。 ・露地栽培において、消化液を基肥及び追肥として施用する方法を確立する。 ・消化液中のアンモニアを低コストで硝酸に変化させる方法及び消化液を培養液として利用する方法を確立する。	土壌環境科(福島務、内山道春、中村明弘、若澤秀幸) 野菜科(坂口優子)	鈴与商事(株)	受託

<新>:新規課題 <助>:国庫補助 <委>:国庫委託 <交>:国庫交付金 <受>:受託 <共>:共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
その他 (共 通) (土壌肥料)	住んでよし訪れてよ し豊かな農山村づく り	29 県内主要農耕地の土壌環境及び土壌炭素モニタリング調査<委>	(26-30)	県内農耕地の土壌群、地目を代表する123定点の土壌環境の実態を明らかにする。さらに重要定点について土壌炭素量を営農活動と合わせて調査を行う。加えて、所内の堆肥連用ほ場(昭和55年設置)において、有機物施用と炭素蓄積様式の間係を明らかにする。	土壌環境科 (内山道春、若澤秀幸、福島務、中村明弘)	静岡経済連 県肥料協会	28-1 県単
		29-1 県内主要農耕地の土壌環境モニタリング調査	26-30	・県内主要農耕地の土壌環境の実態を明らかにする。			28-2 県単
		29-2 県内水田におけるケイ酸供給力の 実態把握と土壌改善基準値の策定	29-30	・県内水田の土壌及び灌漑水によるケイ酸供給力の実態を明らかにし、食用稲、飼料用稲等の作型にあわせた土壌改善基準値を策定する。			28-3 国庫委託「 農地土壌炭 素貯留等基 礎調査事業 」
		29-3 県内主要農耕地の土壌炭素含有量 の実態把握と有機物施用が炭素蓄積 に及ぼす影響<委>	26-30	・県内主要農耕地土壌の炭素含有量の実態を明らかにするとともに、有機物施用が土壌炭素蓄積に及ぼす影響を明らかにする。			

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

(2) 茶業研究センター

農林技術研究所 茶業研究センター No. 1

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
茶 業 (抹茶) (栽培・加工)	「場の力」を活用した 地域経済の活性化	1 静岡抹茶の生産拡大に向けたてん茶安定生産技術の開発<新><共> 1-1 静岡抹茶に適した生葉の生産技術の開発<新><共> 1-2 高品質てん茶の加工技術の開発<新><共>	(29-31) 29-31 29-31	輸出の拡大等により、てん茶生産が急速に増加しており、県内でもてん茶工場の整備が進むなど、現場の意欲は高まっている。そこで、「茶の都」静岡県のブランド力を強化するためには、高品質なてん茶を安定的に生産することが不可欠である。 ・高収量または高品質なてん茶用生葉を安定生産するため、品種選定、枝条管理、被覆方法など最適な栽培方法を明らかにする。 ・摘採されたてん茶用生葉について、工場への搬入から蒸熱までの過程において最適な管理方法を明らかにする。また、最近開発されたてん茶機械について、品質や効率等の特性を明らかにする。	栽培育種科 (小柳津勤、中野敬之、鈴木利和、片井秀幸、池田早希) 商品開発科 (小林利彰、畑中義生、勝野剛、植松恵美子) <共> 富士通(株) カワサキ機工(株) (株)寺田製作所	お茶振興課	県 単 (新成長)
茶 業 (茶) (栽培・加工)	「場の力」を活用した 地域経済の活性化	2 健康長寿静岡の新たな機能性食品産業の創出 2-1 本県農林水産物の機能性データベースの構築 2-2 機能性表示制度を目指した商品開発	(28-30) 28-30 28-30	本県農林水産物の機能性情報を網羅したデータベースを構築する。また、機能性表示を目指した商品を開発する。 ・茶の機能性成分の含有量、変動等を解明し、データベース化する。 ・茶の機能性成分の増強技術を開発し、機能性表示を目指した商品を開発する。	栽培育種科 (亀山阿由子)	研究開発課	県 単 (新成長) 所内連携
茶 業 (茶) (病害虫・土壌肥料)	「場の力」を活用した 地域経済の活性化	3 ふじのくに農水産物の品質・競争力向上と輸出拡大技術の開発 3-1 輸出茶(抹茶・有機茶)に対応した病害虫管理技術の構築と粉末化の実証 3-1-1 被覆栽培における病害虫管理技術の構築と実証 3-1-2 有機茶に対応した病害虫管理技術の構築と実証	(28-30) 28-30 28-30	輸出の拡大が期待される被覆茶や有機茶で、本県に適する病害虫の防除体系を確立し、その被覆茶から製造した粉末茶の品質を確認する。 ・二番茶での被覆栽培において、輸出相手国の残留基準値をクリアするための病害虫防除体系を構築し実証する。 ・有機栽培に対応した病害虫防除体系を構築し実証する。	生産環境科 (小杉由紀夫、鈴木幹彦、小澤朗人、内山徹、渥美和彦)	お茶振興課	県 単 (新成長) 所内連携

<新>: 新規課題 <助>: 国庫補助 <委>: 国庫委託 <交>: 国庫交付金 <受>: 受託 <共>: 共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
茶業 (発酵茶) (加工)	「場の力」を活用した 地域経済の活性化	4 静岡の香りに特色ある茶の品質評価・香味改善に関する研究<新> 4-1 紅茶の品質評価技術の開発<新> 4-2 県内産紅茶の新たな香り発揚技術の開発<新> 4-3 香り緑茶製造技術の低コスト化<新>	(29-31) 29-31 29-31 29-31	紅茶の品質を客観的なデータで評価するため、近赤外成分分析技術を利用した品質評価技術を開発し、紅茶生産にフィードバックする。また、先行研究で得られた香り発揚の要因を紅茶に応用し、新たな香り発揚技術を開発する。香り緑茶の大量香り発揚技術を現場の環境に対応した香り発揚技術に改良し、初期投資の低コスト化を図る。	商品開発科 (畑中義生、後藤正、植松恵美子)	カワサキ機工(株) 藤枝市茶振興協議会	県単
茶 業 (茶) (育種)	豊かさを支える農林業の強化	5 新品種育成 5-1 遺伝資源の収集、保存 5-2 変異の拡大	(28-32) 28-32 28-32	収集、保存された遺伝資源を利用し、香味に優れた市場性が高い品種、耐寒性、耐病・耐虫性の品種を早期に育成する。 ・チャ遺伝資源の収集、保存を図る。 ・人為交配あるいは突然変異等により新しい遺伝子型を作出する。	栽培育種科 (小柳津勤、片井秀幸、池田早希)	お茶振興課	県 単
茶 業 (茶) (育種)	豊かさを支える農林業の強化	6 品種の選定<委> 6-1 奨励品種選定試験<委>	(28-32) 28-32	本県で育成した優良系統と独法や他府県で育成した優良系統等について、生育・収量・品質の特性を比較検討し、静岡県奨励品種としての適性を持った品種を選定する。	栽培育種科 (小柳津勤、片井秀幸、池田早希)	お茶振興課	県 単 国庫委託 (系適)
茶 業 (茶) (育種)	豊かさを支える農林業の強化	7 チャ育成地育成系統の地域評価試験<委><共>	(26-30)	温暖地育成地で育成された系統について、生育や耐寒性、耐病虫性、収量性、品質等の諸特性を明らかにする。併せて、中山間地における重要病害であるもち病に対する抵抗性を、ほ場発生レベルで明らかにする。	栽培育種科 (小柳津勤、片井秀幸、池田早希) <共> 農研機構果樹茶業研究部門	お茶振興課	国庫委託 (農食研)
茶 業 (茶) (育種)	豊かさを支える農林業の強化	8 品種茶利用促進のための特性解明 8-1 新品種「ゆめするが、しずかおり」の特性評価 8-2 被覆特性評価 8-3 生葉香り発揚特性評価	(27-31) 27-31 27-31 27-31	近年育成した新品種について、品種茶の利用範囲の拡大を図るため、普通煎茶以外の特性を明らかにする。 ・新品種「ゆめするが、しずかおり」に適した蒸度を明らかにする。 ・おい茶(白葉茶、かぶせ茶、碾茶など)生産のための被覆処理に適した品種を選定する。 ・香り緑茶(静岡型発酵茶、「第三の煎茶」など)生産に適した品種を選定する。	栽培育種科 (片井秀幸、小柳津勤、池田早希)	経済連	県単

<新>: 新規課題 <助>: 国庫補助 <委>: 国庫委託 <交>: 国庫交付金 <受>: 受託 <共>: 共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
茶 業 (茶) (機械)	豊かさを支える農林業の強化	9 移動および運搬作業を無人化する農業用自律走行ロボットの開発<新>	(29-31)	本研究では、移動、運搬をロボット化することで、重労働を解消し、労力削減を実現する。また、労働環境の改善により農業労働の魅力を向上し、雇用確保につなげる。 ここでは、既存の乗用型摘採機走行体を基に、自律走行体を開発する。うね内の操舵と旋回を自律制御することにより、無人走行を実現する。走行体は、摘採、防除、施肥などの作業ユニットを搭載可能とする。	栽培育種科 (中野敬之)	農業戦略課	県単 (新成長)
		9-3 茶園用多目的ロボット走行体の開発<新>	29-31				所内連携
茶 業 (茶) (病害虫・栽培)	豊かさを支える農林業の強化	10 無人航空機による樹園地の超省力化・精密生産管理システムの開発	(28-30)	無人機を利用したセンシング技術を開発し、樹園地の生体情報を効率的に収集および解析する。 ・無人機による画像情報に基づき、茶園における病害虫被害や水分ストレスなどのストレス診断技術を開発する。	生産環境科 (小澤朗人) 栽培育種科 (亀山亜由子)	お茶振興課	県単 (新成長)
		10-2 センシング技術を応用した効率的生体情報収集技術の開発 10-2-3 センシングによるストレス診断の基礎技術開発	28-30				所内連携
茶 業 (茶) (土壌肥料)	豊かさを支える農林業の強化	11 メタン発酵消化液を利用した茶施肥管理技術の開発<受>	(28-30)	メタン消化液を液肥の代替とすることで、品質向上、低コスト、環境負荷軽減を同時に実現する施肥管理技術を確立する。 ・メタン発酵消化液の施用が、茶の収量・品質に与える影響を明らかにする。 ・メタン発酵消化液の土壌での窒素挙動及び、環境への影響を明らかにする。 ・現地での問題点等を明らかとし、普及促進のための基礎資料を得る。	生産環境科 (渥美和彦、小杉由紀夫)	鈴与商事㈱	受託
		11-1 メタン発酵消化液の施用が茶樹に及ぼす影響<受>	28-30				
		11-2 メタン発酵消化液の施用が環境に及ぼす影響<受>	28-30				
		11-3 現地実証試験<受>	30				
茶 業 (茶) (土壌肥料)	豊かさを支える農林業の強化	12 茶草施用が樹体に与える影響	(28-29)	世界農業遺産に認定された「静岡の茶草場農法」について、茶研センター内に茶草場施用ほ場を設け、茶草施用が収量、品質等に及ぼす影響を明らかにする。	生産環境科 (渥美和彦、小杉由紀夫)	JA掛川市、お茶振興課	国庫委託 (美しい農村再生支援事業)
		12-1 茶草施用が収量等に与える影響	28-29				
		12-2 茶草施用が品質等に与える影響	29				

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
茶 業 (茶) (栽培)	豊かさを支える農林業の強化	13 被覆茶需要に応える簡易な樹体診断法と効率的被覆作業による高品位安定生産体系の確立<委><共> 13-1 茶樹に対する被覆の影響評価手法の高度化および被覆作業の効率化<委><共> 13-2 生産現場における樹体診断法および効率的被覆作業体系の確立<委><共> 13-3 被覆茶安定生産マニュアルの作成と経営的評価<委><共>	(27-29) 27-29 27-29 28-29	急増する被覆茶需要に対応するため、被覆茶樹の診断技術と被覆作業の高能率化技術により被覆茶の安定生産体系を確立する。 ・強遮光が樹体に及ぼす影響および被覆アタッチメントによる作業性向上効果を明らかにする。 ・白葉茶生産茶園において樹体診断法と効率的被覆作業体系の現地実証を行う。 ・白葉茶の安定生産のためのマニュアルを作成し、技術導入による経営向上効果を明らかにする。	栽培育種科 (鈴木利和、片井秀幸、亀山阿由子) <共> 農研機構果樹茶業研究部門、三重県、京都府、ハイナン農協	ハイナン農協	国庫委託 (農食研)
茶 業 (茶) (病害虫)	住んでよし訪れてよし豊かな農山村づくり	14 ハマキガ類の殺虫剤抵抗性機構の解明と抵抗性診断技術の開発<委><交><共> 14-1 殺虫剤抵抗性チャノコカクモンハマキの発生実態把握<委><共> 14-2 殺虫剤抵抗性チャハマキの発生実態把握<交> 14-3 殺虫剤抵抗性機構の解明<委><共> 14-4 殺虫剤抵抗性診断技術の開発<委><共>	(26-30) 26-30 26-30 26-30 26-30	ハマキガ類の殺虫剤抵抗性の実態を把握するとともに遺伝子解析により抵抗性機構を解明し、これまでの室内検定に変わる遺伝子解析による抵抗性診断技術を開発する。 ・チャノコカクモンハマキにおける殺虫剤抵抗性の実態を把握する。 ・チャハマキにおける殺虫剤抵抗性の実態を把握する。 ・抵抗性遺伝子解析により殺虫剤抵抗性機構を解明する。 ・遺伝子解析による殺虫剤抵抗性診断技術を開発する。	生産環境科 (内山徹、小澤朗人) 14-1, 3, 4<共> 農研機構生物機能利用研究部門	相良物産	14-1, 3, 4 国庫委託 (委託プロ) 14-2 国庫交付金 (食の安全安心交付)
茶 業 (茶) (病害虫)	住んでよし訪れてよし豊かな農山村づくり	15 省力的かつ効率的なチャ病害虫防除技術の確立<交> 15-1 炭疽病に対する、各種殺菌剤の有効防除期間の解明<交> 15-2 整枝と薬剤散布を同時に行えるアタッチメントの開発による、輪斑病防除技術の省力化<交> 15-3 耕種的防除法の有無と年間防除体系の組み立て実証<交>	(28-30) 28-29 28-30 28-30	現在の品質を維持しながら、病害虫防除に関する技術の省力化・効率化を実現するための技術を確立する。 ・最近になって登録された新規剤の有効防除期間が明らかになることで、効率的な使用が可能となる。 ・農薬散布量を大幅に削減しても十分な防除効果を上げることが出来るようになる。さらに、薬剤散布に伴う燃料費の削減も可能となる。 ・銅剤をはじめとする各種予防剤(保護剤)と耕種的防除法を組み合わせた場合の防除効果が明らかになる。	生産環境科 (鈴木幹彦)	経済連 (株)寺田製作所	国庫交付金 (食の安全安心交付)

<新>:新規課題 <助>:国庫補助 <委>:国庫委託 <交>:国庫交付金 <受>:受託 <共>:共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
茶 業 (茶) (病害虫)	住んでよし訪れてよし豊かな農山村づくり	16 茶における輸出相手国の残留農薬基準値に対応した防除技術の確立<委><共> 16-1 的確な防除法確立のための病害虫特性の解明 16-1-2 赤焼病菌の生態特性及び発病機構の解明	(28-32) 28-32 28-32	茶の輸出を促進するために、輸出相手国の残留農薬基準値に対応できる病害虫防除体系を構築する。 ここでは、登録農薬が少なく発病後の防除が困難な赤焼病を対象に、発病と菌密度の関係を含めた発病機構の解明を行い、防除適期を再考するとともに、有効薬剤の選定を行う。	生産環境科 (鈴木幹彦) <共> 農研機構果樹茶業研究部門	経済連	国庫委託 (先導プロ)
茶 業 (茶) (病害虫)	住んでよし訪れてよし豊かな農山村づくり	17 日本茶(一番茶)の海外輸出を可能とする病害虫防除体系の構築と実証 <委> <共> 17-1 一番茶の海外輸出を可能とする病害虫防除体系の構築と実証 17-2 輸出対応型病害虫防除体系の高度化素材技術の開発・確立 17-3 日本茶(一番茶)の海外輸出を可能とする病害虫防除体系の普及支援	(28-30) 28-30 28-30 28-30	農産物を海外に輸出するためには、輸出相手国の残留農薬基準(MRL)等への対応が不可欠であり、チャを栽培していない輸出重点国の著しく低いMRLが日本茶輸出の障壁となっている。 ここでは、先行研究により作成した海外輸出に対応したチャ病害虫の防除体系マニュアルに基づき、各産地が実際に利用できる茶種別・輸出相手国別のチャ病害虫防除体系を構築・実証するとともに、輸出可能な茶の安定生産体制を確立し、日本茶の輸出促進に貢献する。	生産環境科 (小澤朗人、内山徹) <共> 農研機構果樹茶業研究部門	J A遠州夢 咲	国庫委託 (地域戦略プロ)
茶 業 (茶) (病害虫・栽培)	住んでよし訪れてよし豊かな農山村づくり	18 新農薬実用化試験 <受> 18-1 新殺虫剤、殺菌剤の選抜 <受> 18-2 除草剤の選抜 <受>	(29) 29 29	日本植物防疫協会等から委託された農薬登録のための効果試験等を行う。	生産環境科 (鈴木幹彦、小澤朗人、内山徹) 栽培育種科 (亀山阿由子)	日植防 日植調	受 託
茶 業 (茶) (病害虫・土壌肥料)	住んでよし訪れてよし豊かな農山村づくり	19 新農薬・新肥料及び新資材等の効果確認及び使用法の検討<受> 19-1 新農薬の使用法の検討 <受> 19-2 新肥料の効果の検討 <受> 19-3 新資材等の効果の検討<受>	(29) 29 29 29	新農薬、新肥料、新資材等の効果及び効率的な使用方法を明らかにする。 ・新規登録農薬の適正な使用方法を検討する。 ・新肥料の効果と適正な使用方法を検討する。 ・新資材等の有効性を検討する。	生産環境科 (小杉由紀夫、渥美和彦、鈴木幹彦、小澤朗人)	肥料協会 日植防	受 託

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部 門	試験研究展開の 基 本 方 向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
果 樹 (カンキツ、 カキ、ナシ、 キウイフル ーツ) (育種)	豊かさを支える農林 業の強化	3 しずおかオリジナル果樹品種の育成と適 応性検定<委><共>	(28-32)	本県の新たな商材として、貯蔵性が高い晩生品種を開発 する。また、温暖な気候において良食味で長期出荷を可能 とする高品質な落葉果樹品種を育成する。	栽培育種科 (中村茂和、吉 川公規、永嶋友 香)	農業経営士 協会果樹部 会	県 単 3-1 国庫委託 (S IP 育種) 3-3 国庫委託 (カンキツ 育種に係る 系統適応 性・特性検 定試験)
		3-1 貯蔵みかん産地しずおかのオリジナル カンキツ品種の開発<委><共>	28-32	重イオンビーム照射を主体とした突然変異育種法によ り、効率的な本県オリジナルの品種開発を図る。	落葉果樹科 (橋本望、村上 覚、荒木勇二)		
		3-2 多彩な良食味オリジナル落葉果樹品 種の開発	28-32	多彩な果実を供給するため、食味に優れ、長期出荷等を 備えた新たな落葉果樹品種を開発する必要がある。	3-1<共>筑波大 学他		
		3-3 (国) 果樹茶業研究部門育成果樹系統 適応性検定試験<委>	28-32	特色ある果樹産地育成に向け、各産地の気象条件に適応 する高品質な新品種の情報を提供する。			
果 樹 (カンキツ) (栽培)	豊かさを支える農林 業の強化	4 カンキツ経営を強化する県オリジナル 品種・系統の安定生産技術の確立	(27-29)	青島温州主体の経営を補完する当センターで育成した 品種・系統について、導入リスクの軽減や生産力を向上さ せるために、安定生産技術の確立を図る。	栽培育種科 (濱崎櫻、山家 一哲、中村茂和、 佐藤優賛)	丸浜柑橘農 協連	県 単
		4-1 ‘静丸早生’ のス上がり症状の原因 究明と軽減技術の確立	27-29	現地試作で指摘された「ス上がり果」の発生要因を明ら かにするとともに、対策技術を開発する。			
		4-2 「S1200(1月採り温州)」の安定生産 技術の確立	27-29	「S1200」初期生育特性を明らかにするとともに、高品 質安定生産に向けた栽培管理技術を確立する。			
		4-3 ‘静姫’ (3月出荷中晩柑)の安定生産 技術の確立	27-29	‘静姫’の初期生育特性を明らかにするとともに、高品 質安定生産に向けた栽培管理技術を確立する。			
果 樹 (カキ、キウ イフルーツ) (栽培)	豊かさを支える農林 業の強化	5 カキ、キウイフルーツ育成新品種の利用 法の開発<委><共>	(27-29)	育成新品種の早期普及を図るため、利用技術を開発す る。		落葉果樹科 (荒木勇二、村上 覚、橋本望、山 口和希)	落葉果樹振 興協会
		5-1 カキわい性台木の利用技術の開発 <委><共>	27-29	カキわい性台木の性質に合わせた台木の茎頂培養苗の早 期育成技術および、早期成園化に向けた優良大苗生産技術 を開発する。	5-1<共>(国) 果 樹茶業研究部門 他、<共>浜松市 バイオセンター		
		5-2 キウイフルーツ ‘静岡ゴールド (品 種登録出願中)’ の特性を利用した 年末出荷体系の構築	27-29	キウイフルーツ ‘静岡ゴールド (品種登録出願中)’ の追 熟特性および貯蔵性を明らかにすることで年末出荷に向 けた出荷体系を構築する。			

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部 門	試験研究展開の 基 本 方 向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
果 樹 (ウンシュウ ミカン) (栽培、機械)	豊かさを支える農林 業の強化	6 移動および運搬作業を無人化する農業 用自律走行ロボットの開発(29-31)〈新 〉 6-1 ロボットを活用する果樹園管理省力 化技術の開発〈新〉	(29-31) 29-31	果樹園管理作業において、収穫物の運搬等、労働負荷の 大きな作業への自動運搬ロボットの有効的な利用方法を 確立し、実用的かつ超省力的な果樹生産を実現する。 果樹研究センターで開発した果樹園での作業者追従自 動運搬ロボット等について、省力化につながる圃場条件を 明らかにし、最適な運用となる走行制御技術、樹園地管理 技術を開発すると共に追従制御の改良を図る。さらにロボ ット導入の経営試算を実施する。	栽培育種科 (佐藤優賛、濱 崎櫻、吉川公規)	農業戦略課	県 単 (新成長) 所内連携
果 樹 (ウンシュ ウミカン) (栽培、土壌 肥料)	豊かさを支える農林 業の強化	7 カンキツ新樹形における効率的な管理手法 の開発〈委〉〈共〉 7-1 垣根型樹形を形成する省力的な枝梢・ 結実管理技術の開発〈委〉〈共〉 7-2 樹勢維持により安定生産可能な肥培管 理技術の開発〈委〉〈共〉	(28-32) 28-32 28-32	省力化と未収穫期間の短縮、安定多収を確保できる養水 分管理法と樹形管理技術の開発を構築する。 摘果剤や機械剪定により、作業の省力化が可能な垣根型 のわい化樹形管理技術を開発する。 液肥管理技術、マルチ被覆などにより、樹勢を維持でき 安定生産可能な肥培管理技術を確立する。	生産環境科 (江本勇治、影山 智津子) 栽培育種科 (山家一哲、佐 藤優賛、吉川公 規) 〈共〉(国)果樹茶 業研究部門他	丸浜柑橘農 協連	国庫委託 (革新的技 術開発・緊 急展開事 業)
果 樹 (ウンシュ ウミカン) (栽培、土壌 肥料、病害 虫、機械)	豊かさを支える農林 業の強化	8 無人航空機による樹園地の超省力・精密 生産管理システムの開発〈共〉 8-1 超省力化技術の開発 8-2 センシング技術を応用した効率的な生体 情報収集技術の開発〈共〉 8-3 無人航空機を活用した産地管理システ ムの構築と樹園地経営モデルの検証	(28-30) 28-30 28-30 28-30	樹園地における無人航空機の利用技術を確立し、樹園地 における農作業の省力・軽労働・低コスト化、かつ生産性 を高める精密生産管理技術を開発する。 傾斜地の農作業のうち、重労働の農薬散布と施肥におけ る無人航空機の利用技術を開発する。 無人航空機に搭載したカメラにより、モニタリング画像 を空中から迅速に収集してマップ化し、さらに樹体成育 量、ストレス診断の基礎技術を開発する。 空中センシング技術により得られる樹園地別の詳細な 情報を産地全体の生産指導に結びつける手法を協力機関 の JA みっかびで試行する。また、無人航空機を実際の生 産現場で使用し、作業効率・コストを検証する。	生産環境科 (増井伸一、影山 智津子、江本勇 治、土田祐大) 栽培育種科 (佐藤優賛、濱 崎櫻、吉川公規) 〈共〉ふじのくに SKY イノベーシ ョン、リモー ト・センシング 技術センター	農芸振興課 ・お茶振興課	県 単 (新成長)

〈新〉：新規課題 〈助〉：国庫補助 〈委〉：国庫委託 〈交〉：国庫交付金 〈受〉：受託 〈共〉：共同研究

部 門	試験研究展開の 基 本 方 向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
果 樹 (キウイフ ルーツ、ナ シ) (栽培)	豊かさを支える農林 業の強化	9 キウイフルーツ・ナシ安定生産のための 花粉自給率向上に繋がる省力・低コスト 花粉採取技術の開発<委><共> 9-1 キウイフルーツ花粉の効率的採取技術 の開発<委><共> 9-2 キウイフルーツ、ナシにおける静電風 圧式受粉機の効果確認<委><共>	(28-30) 28-30 28-30	花粉の効率的採取法を目指した枝管理技術を開発する と共に、新たに開発した静電風圧式受粉機による花粉量削 減効果を検証し、輸入花粉への依存度を下げる。 キウイフルーツ花粉の効率的採取に向けた、枝管理技術 および新型花蕾採取機による効率的採取を検討する。 キウイフルーツ、ナシにおいて、静電風圧式受粉機利用 による着果率や品質、省力効果等について検討する。	落葉果樹科 (村上覚、荒木勇 二、山口和希、 橋本望) <共>埼玉県、 (国)革新工学 研他	静岡県落葉 果樹振興協 会	国庫委託 (農林水産 業・食品産 業科学研究 推進事業)
果 樹 (ウンシュウ ミカン) (栽培)	豊かさを支える農林 業の強化	10 ふじのくに農水産物の品質・競争力 向上と輸出拡大技術の開発 10-1 UV等光照射を中心としたみかんの 腐敗防止技術の開発	(28-30) 28-30	輸出拡大を目指す本県の主要農水産物について、輸出・ 販路拡大上の技術的課題を解決することにより、農水産物 の輸出振興に貢献する。 みかんはアジアやカナダに船便で輸出されているが、コン テナ中での腐敗が問題となっている。そこで、腐敗を防 止できる果実へのUV照射技術等の実用化を図ることによ り、低コストな腐敗防止技術を開発する。	栽培育種科 (中村茂和、 濱崎櫻、山家一 哲、永嶋友香) 生産環境科 (加藤光弘) <共>県商店	マーケティ ング課、農芸 振興課	県 単 (新成長) 所内連携
果 樹 (ウンシュウ ミカン) (栽培)	豊かさを支える農林 業の強化	11 ウンシュウミカンの長期鮮度保持技術 の実証 <委><共> 11-1 GP 剤と青色 LED 冷風貯蔵の組合せに よるウンシュウミカンの鮮度保持技術 の実証<委><共> 11-2 ウンシュウミカンの長期鮮度保持技 術のマニュアル作成<委><共>	(28-30) 28-30 29-30	本県のウンシュウミカンは貯蔵が主力であるが、温暖化 により貯蔵性が低下しているため、貯蔵果実の鮮度保持に ついて、従来技術を上回る新しい貯蔵技術を開発する ウンシュウミカンの腐敗抑制、浮皮防止、品質保持につ いて、GP 剤と青色 LED、冷風貯蔵を組み合わせた技術を実 証する。 栽培技術を含めた既存の手法と、新しい貯蔵方法を組み 合わせた体系を確立し、マニュアルを作成する。	栽培育種科 (山家一哲、中 村茂和、吉川公 規) <共>(国)九州 沖縄農研他	マーケティ ング課	国庫委託 (革新的技 術開発・緊 急展開事 業)
果 樹 (カンキツ) (病害虫)	住んでよし訪れてよ し豊かな農山村づく り	12 カンキツ園における生物多様性の機能 を活用した害虫管理技術の開発 12-2 生物多様性の機能活用技術と既存技 術による体系化	(27-29) 28-29	カンキツ園が保持する生物多様性の機能を活用して、サ ビダニ、アザミウマ、カイガラムシの管理技術を開発し、 エコファーマー制度に沿ったマニュアル化を行う。 カンキツ園内外の多様な植物により強化される天敵群 集等を活用した害虫密度抑制技術を開発する。 生物多様性機能阻害要因の排除や既存技術との体系化 により、殺虫剤使用低減と効率的害虫管理の両立を図る。	生産環境科 (土田祐大、増井 伸一)	地域農業課	県単

<新>:新規課題 <助>:国庫補助 <委>:国庫委託 <交>:国庫交付金 <受>:受託 <共>:共同研究

部 門	試験研究展開の 基 本 方 向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
果 樹 (キウイフル ーツ) (病害虫)	住んでよし訪れてよ し豊かな農山村づく り	13 キウイフルーツかいよう病新系統Psa3 の対策技術の確立<委><共>	(27-29)	病原性が強い新系統のキウイフルーツかいよう病 Psa3 の被害実態と、防除体系を確立する。	生産環境科 (加藤光弘、影 山智津子) 落葉果樹科 (村上覚) <共>(国)果樹茶 業研究部門他	地域農業課	国庫委託 (農林水産 業・食品産 業科学研究 推進事業)
		13-1 キウイフルーツかいよう病新系統 Psa3による被害状況の把握<委><共>	27-29	県内キウイフルーツの、かいよう病の新系統 Psa3 によ る被害状況を調査し、現状を把握する。			
		13-2 新資材による防除体系の確立 <委><共>	28-29	化学農薬等による防除法を確立し、病気のまん延を防 ぐ。			
果 樹 (カンキツ) (病害虫)	住んでよし訪れてよ し豊かな農山村づく り	14 生育調節及び病害虫防除等新資材の開 発<受>	(29)	新しい植物生育調節剤および病害虫防除剤等の特性解 明と利用法の開発、害虫防除コストの低減と農薬による危 害防止のための天敵利用技術を開発する。	生産環境科 (影山智津子、増 井伸一、中村明 弘、加藤光弘、 江本勇治、土田 祐大) 栽培育種科 (佐藤優賛) 落葉果樹科 (村上覚、山口和 希、荒木勇二)	植防協会 肥料協会	受託
		14-1 生育調節剤・除草剤等資材利用法の 開発<受>	29	新植物調節剤、除草剤等資材の効果、薬害及び安全性の 解明とともに高度利用技術を開発。			
		14-2 殺虫剤・殺菌剤利用法の開発<受>	29	新殺虫剤、殺菌剤の効果、薬害及び安全性の解明ととも に高度利用技術を開発。			

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

(4) 伊豆農業研究センター

農林技術研究所 伊豆農業研究センター No. 1

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
花 き・野菜・ その他 (枝物・特産 野菜・その 他) (栽培)	「場の力」を活用した 地域経済の活性化	1 カワヅザクラ切り枝等伊豆特産作物の栽培技術の開発<新><委><共>	(29-31)	カワヅザクラの切り枝、野ブキ、キヌサヤエンドウ、薬用作物等について、伊豆特産作物としての産地化に向けた栽培技術を開発する。	栽培育種科 (種石始弘)	JA伊豆太陽	県 単 1-3 国庫委託 (農林水産 省委託プロ ジェクト研 究)
		1-1 ジョイント仕立てによるカワヅザクラの切り枝利用技術の開発<新>	29-31	カワヅザクラの切り枝を利用するため、開花調整法の開発やジョイント仕立てによる早期成園化を検討する。	わさび科 (久松 奨)		
		1-2 伊豆特産野菜の安定生産技術の開発<新>	29-31	野ブキの連作障害やキヌサヤエンドウの「白斑症」の原因を解明し対応策を明らかにする。	1-3<共> 農研機構、医薬 健栄研他		
		1-3 ミシマサイコの生産拡大のための技術開発<新><委><共>	29-31	ミシマサイコの初期生育の改善により、発芽率の向上技術やマルチ利用技術を開発、実証する。			
野 菜・果樹 (ワサビ・中 晩柑他) (商品開発)	「場の力」を活用した 地域経済の活性化	2 健康長寿静岡の新たな機能性食品産業の創出<共>	(28-30)	本県食品関連産業を活性化し、「ふじのくに静岡の経済発展」と「健康増進」を推進するため、本県の豊かな農林水産物が持つ機能性を活かした研究を実施する。	栽培育種科 (浜部直哉、前 田未野里、種石 始弘)	経済産業部	県 単 (新成長) 所内連携
		2-1 本県農林水産物の機能性データベースの構築<共>	28-30	多様な農水産物の機能性情報を網羅したデータベースを構築し、ワサビについては品種別、部位別の機能性成分の違いを明らかにする。	わさび科 (西島卓也) 2-1<共> 本所、茶研セ、 果樹研セ、工技 研、畜技研、水 技研、環衛研他		
花 き (カーネーション) (育種・栽培)	「場の力」を活用した 地域経済の活性化	3 夏期の高温化に適応したカーネーション新品種の育成選抜と栽培技術の開発	(28-32)	高温下で多発する病害に対して抵抗性がある品種を育成し、高温対策技術を確立する。	栽培育種科	JA伊豆太陽	県 単
		3-1 高温抵抗性品種の育成	28-32	交配育種により、高温下での2年切り栽培に適したオリジナル品種を育成する	(加藤智恵美、 勝岡弘幸)		
		3-2 育成品種の2年切り栽培体系の確立	28-32	高温対策技術を開発し、育成品種の2年切り栽培体系を確立する。			

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <指>：指定試験 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
花 き (マーガレット) ・特産花き) (育種・栽培)	「場の力」を活用した 地域経済の活性化	4 マーガレット新品種育成と伊豆特産花 きの生育特性の解明<委><受><共>	(28-32)	耐暑性、耐寒性に優れた早生性品種やオリジナル性の高い品種育成と夏期の高温対策技術を開発する。	栽培育種科 (勝岡弘幸、加藤智恵美) 4-3<共> 宮崎県、農研機構他	静岡県東部 花き流通セ ンター農協、 JA伊豆太陽	県 単 4-3 国庫委託 (革新的技 術開発・緊 急展開事業) 受託(日本 種苗協会)
		4-1 鉢物用マーガレットの新品種育成	28-32	オリジナル性が高く、耐暑性、耐寒性に優れた早生の新品種を育成する。			
		4-2 切花用マーガレットの新品種育成	28-32	有色品種(黄色、桃色)を中心とした早生品種で、採花本数の多い新品種を育成する。			
		4-3 伊豆特産花きの生育特性の解明<委> <受><共>	28-32	マーガレット、ハナムギ等の生産性や品質を向上する技術を開発する。			
果 樹 (中晩柑他) (育種)	「場の力」を活用した 地域経済の活性化	5 伊豆の多様な販売形態に利用できる果 樹品種の選抜	(28-32)	他機関で育成された品種や既存品種の中で、伊豆地域に適した品種を選抜し、新品種育成のための交雑手法を開発する。	栽培育種科 (前田末野里、浜部直哉)	県農業経営 士会果樹部 会	県 単
		5-1 特産品種開発に向けた果樹品種の選 抜と交雑手法の開発	28-32	特産品開発や特色のある果樹品種を育成するため、有望な品種を選抜し、交雑手法を開発する。			
		5-2 多彩な販売形態に利用できる果樹品 種の導入と選抜	28-32	国立研究開発法人等が育成した系統や品種について、生育や品質を調査し、伊豆地域に適した品種を選抜する。			
野 菜 (ワサビ) (育種)	「場の力」を活用した 地域経済の活性化	6 ワサビ新品種育成と系統選抜<委><共>	(28-32)	種子繁殖が可能で、揃いが良く安定した生産ができる品種を育成する。	わさび科 (馬場富二夫、久松 奨、西島卓也) 6-3<共> 山口県、佐賀県 他	静岡県山葵 組合連合会	県 単 6-3 国庫委託 (革新的技 術開発・緊 急展開事業)
		6-1 種子繁殖性品種の育成	28-32	夏季に生育が旺盛な品種を育成する。			
		6-2 栄養繁殖性品種の評価法の確立およ び系統選抜	28-32	栄養繁殖性品種の評価方法を確立し、現地の優良系統を選抜する。			
		6-3 育成品種の採種、栽培体系の確立<委> <共>	28-32	採種・種子保存方法を含めた安定生産のための栽培体系を確立する。			

<新>: 新規課題 <助>: 国庫補助 <指>: 指定試験 <委>: 国庫委託 <交>: 国庫交付金 <受>: 受託 <共>: 共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
果 樹 (中晩柑) (栽培)	豊かさを支える農林業の強化	7 ヒュウガナツ系新品種の導入と生産安定技術の体系化 7-1 早期成園化技術の開発 7-2 高品質安定生産技術の開発 7-3 無核・少核果条件の解明	(27-29) 27-29 27-29 28-29	ヒュウガナツ系新品種の特性を生かし、高糖度や無核果等の高品質果実を早期・安定的に生産するための技術体系を確立する。 仕立て方やかん水同時施肥により、早期成園化技術を開発する。 冷温貯蔵、剪定早期化を組み合わせた高品質安定生産技術を開発する。 受粉樹の種類や設置方法により無核・小核果条件を解明する。	栽培育種科 (浜部直哉、前田未野里)	JA伊豆太陽	県 単
野 菜 (ワサビ) (栽培)	豊かさを支える農林業の強化	8 ワサビ種苗の安定的生産供給体制の確立 8-1 種子繁殖性品種の種苗生産供給技術の開発 8-2 栄養繁殖性品種の苗生産供給技術の開発 8-3 秋季定植苗の安定供給技術の開発	(28-30) 28-30 28-30 28-30	種苗を安定的に周年供給できる生産技術を開発する。 種子繁殖性品種の実生苗生産における種子の発芽率向上技術と育苗期間短縮技術を開発する。 栄養繁殖性品種の二次苗生産における増殖率向上技術を開発する。 夏季高温期の育苗技術及び苗の長期冷蔵技術を開発する。	わさび科 (久松 奨、馬場富二夫、西島卓也)	静岡県山葵組合連合会	県 単
その他 (共通)	住んでよし訪れてよし豊かな農山村づくり	9 農作物品種及び生産資材の比較、検定、調査<受> 9-1 農作物品種の比較、検定<受> 9-2 肥料、農薬等の効果検定、調査<受> 9-3 資材機械等の性能調査<受>	(29) 29 29 29	地域で要望された調査や緊急的な課題について検討する。 新品種、新作物等の特性について検討する。 新しく開発された肥料、農薬等を検定する。 被覆材、新型機械、器具等を調査する。	栽培育種科 わさび科	植物防疫協会、静岡県山葵組合連合会等	県 単 受託

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <指>：指定試験 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

(5) 森林・林業研究センター

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
森林・林業 (スギ) (木材加工)	「場の力」を活用した 地域経済の活性化	1 要求性能に応じた木材を提供するため、 国産大径丸太の強度から建築部材の強度 を予測する技術の開発、〈委〉〈共〉 1-1 大径丸太含水率の非破壊評価・選別 技術の開発〈委〉〈共〉	(28-32)	スギ大径丸太の木材性質から建築部材の強度を予測する技術のうち、高含水率域の丸太内部の含水率（水分）分布を非接触で評価する手法及び計測装置の開発を行う。 スギ大径丸太の内部（心材）含水率分布を高精度に評価を目的として、丸太の非接触式では低周波域電磁波の位相やガンマ線検出量、接触式では針式電極等の位相や静電容量及び製材・乾燥前後の含水率試験等に基づき、現場への実用化導入を想定した評価手法と装置を開発する。	木材林産科 (池田潔彦・佐々木重樹・星川健史) 〈共〉森林総合研究所、県内企業	林野庁 林業振興課	国庫委託（革新的技術開発・緊急展開事業） （うち先導プロジェクト）
森林・林業 (スギ・ヒノキ) (育 種)	豊かさを支える農林 業の強化	2 森林・林業再生を加速する静岡型エリートツリーによる次世代省力造林技術の開発 2-1 エリートツリーの品種開発 2-2 コンテナ苗による省力的造林技術の開発	(25-29) 25-29 25-29	主伐と確実な植林を促進するため、成長やその他の性質に優れるエリートツリーの作出と、コンテナ苗造林技術とを融合した省力的再造林システムを開発する。 高成長、高強度、少花粉等の特性を併せ持つスギ優良品種を作出する。 コンテナ苗生産技術や植栽機械を開発する。また、伐採と一体的に行う更新手法による作業の省力化を検証する。	森林育成科 (袴田哲司・近藤晃・加藤徹・大場孝裕・山田晋也) 木材林産科 (平山賢次) 森林管理署ほか	森林整備課 林業振興課	県 単 (新成長)
森林・林業 (ヒノキ) (育 種)	豊かさを支える農林 業の強化	3 新たな人工交配施設を活用した優良種子生産技術の開発 3-1 特性評価に基づく母樹の選抜 3-2 優良種子生産技術の開発	(28-32) 28-30 28-32	低コスト再造林に対応する高成長、高強度、少花粉の苗木生産に必要な種子供給体制を整備する。 母樹の成長・材質・種子生産能力評価を行い選抜する。 新たな手法による人工交配及び早期成園化技術を開発する。	森林育成科 (山田晋也)	森林整備課	県 単

〈新〉：新規課題 〈助〉：国庫補助 〈指〉：指定試験 〈委〉：国庫委託 〈交〉：国庫交付金 〈受〉：受託 〈共〉：共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
森林・林業 (シイタケ) (特用林産)	豊かさを支える農林業の強化	4 菌床シイタケ栽培等における安定生産技術の開発<新><交>	(29-33)	空調施設栽培での生産量が安定しない原因等を解明し、その対処技術を開発する。	木材林産科 (山口亮) 森林育成科 (加藤徹)	大井川地区 シイタケ生 産者組合協 議会	国庫交付金 (林業普及 システム化 事業)
		4-1 空調栽培における安定生産技術の開発<新><交>	(29-33)	季節別生産量の推移や発生量ばらつき等の調査、冷蔵刺激等を利用した安定生産技術を開発する。			
		4-2 2回目以降の発生量を増加させる菌床管理技術の開発<新><交>	(29-33)	適切な休養条件の解明、新たな資材・機器等を利用した増収技術を開発する。			
森林・林業 (スギ・ヒノ キ) (林業経営・ 林業機械)	豊かさを支える農林業の強化	5 効率的な皆伐等作業システムの構築<交>	(28-30)	森林資源を有効利用するため、木材搬出を効率的に行う作業システムについて究明する。	木材林産科 (平山賢次・佐々 木重樹)	静岡県森林 組合連合会	国庫交付金 (林業普及 システム化 事業)
		5-1 低コスト皆伐作業システムの構築<交>	28-30	車両系・架線系高性能林業機械を使用した皆伐作業システムを調査し、その生産性と生産コストを明らかにする。			
		5-2 低コストバイオマス供給システムの構築<交>	28-30	低質材等のバイオマス原料を搬出する際の生産性と生産コストを明らかにする。			
森林・林業 (スギ・ヒノ キ) (林業経 営・林業機 械)	豊かさを支える農林業の強化	6 多様なニーズに対応する県産材供給体制構築に関する技術開発<新>	(29-31)	多様なニーズへの安定供給を可能にするため、丸太生産業者と製材加工業者の生産情報を共有化するネットワークシステムの構築を行う。	木材林産科 (佐々木重樹・ 星川健史)	林業会議所 森林計画課 林業振興課	県単 (新成長)
		6-1 I o Tによる丸太の供給情報の共有化<新>	29-31	木材製品や丸太等の生産情報をGISで共有し、IoTを活用したネットワークシステムを構築する。			
		6-2 ドローンを活用した森林資源情報等の把握技術の開発<新>	29-31	樹種、材積、立木形状、地形等の森林情報の取得を、ドローンを活用して低コストで行う手法を開発する。			
森林・林業 (シイタケ) (森林保護)	住んでよし訪れてよし豊かな農山村	7 シイタケ生産における原木・菌床栽培上及び原木林育成上の害虫対策に関する研究	(25-29)	シイタケ栽培において問題となっている害虫について、栽培法ごとに対策を究明する。また、原木林の脅威となるナラ枯れ対策についても究明する。	森林育成科 (加藤徹) 木材林産科 (山口亮)	森林整備課 林業振興課	県 単
		7-1 シイタケ栽培における害虫の被害対策	25-29	ほだ木のコチャイロコメツキダマシや菌床のキノコバエ類などの害虫対策を解明する。			
		7-2 シイタケ原木のナラ枯れ防除技術の開発	25-29	ナラ枯れを引き起こすカシノナガキクイムシについて分布拡大様式と防除技術の解明を図る。			

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <指>：指定試験 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
森林・林業 (クロマツ) (森林保全)	住んでよし訪れてよし豊かな農山村	8 無人航空機による森林病虫害防除システムの実用化<委><共> 8-1 無人航空機による自動散布システムの開発<委><共> 8-2 無人航空機の運用体制の開発<委><共>	(28-30) 28-30 28-30	計測用無人航空機の飛行により取得した3次元地図から、樹冠上から一定距離を保った飛行ルートを作成し、薬剤散布用無人航空機による自動散布が行えるシステムを開発し実証を行う。また、森林での安全な航行のための、無人航空機の運用体制を開発する。同時に、無人航空機から取得した画像から被害木を判別して位置図を作成することで、予防散布と伐倒駆除を合わせた一体的な防除システムを構築する。	木材林産科 (星川健史・平山賢次) 森林育成科 (加藤徹・猿田けい) <共>県内企業	森林整備課	国庫委託(地域)
森林・林業 (海岸防災林) (森林保全)	住んでよし訪れてよし豊かな農山村	9 津波に強い多機能海岸防災林に対応した苗木生産と造成管理の技術開発 9-1 多機能海岸防災林へ植栽する種苗生産技術の開発 9-2 多機能海岸防災林の造成技術の開発	(26-30) 26-30 26-30	津波に強い多機能な海岸防災林を早期に確実に造成するため、抵抗性クロマツや広葉樹の苗木を大量生産する技術や海岸林造成及び育成管理技術を開発する。 松くい虫抵抗性クロマツのさし木による大量生産技術や海岸に適した広葉樹のコンテナ苗生産技術を開発する。 防潮堤盛土へ海岸防災林を造成する技術や海岸防災林の機能向上を図る育成管理技術を開発する。	森林育成科 (猿田けい・袴田哲司・加藤徹)	森林保全課 西部農林	県 単
森林・林業 (ニホンジカ) (森林保護)	住んでよし訪れてよし豊かな農山村	10 シカ個体数削減過程で生じる捕獲効率低下の抑制に関する研究 10-1 誘引による捕獲の高効率化に関する研究 10-2 捕獲作業効率低下要因の軽減に関する研究	(28-32) 28-32 28-32	シカ個体数削減過程で起こる、密度低下、捕獲困難地残などによる捕獲効率低下に対して、誘引による捕獲の高効率化、捕獲作業効率低下要因の軽減といった対策を研究する。 様々な誘引物の効果を環境条件も踏まえて検証する。 誘引物・誘引方法と捕獲方法の最適化を行う。 クマ・カモシカの錯誤捕獲軽減・対処技術を開発する。 シカ捕獲個体放置の影響を検証する。	森林育成科 (大場孝裕・小松鷹介)	自然保護課	県 単
森林・林業 (ハクビシン・アライグマ・イノシシ) (森林保護)	住んでよし訪れてよし豊かな農山村	11 果樹園での加害獣判別と捕獲技術の確立およびイノシシの成獣捕獲技術の開発 11-1 加害獣調査および捕獲手法の確立 11-2 イノシシ成獣捕獲技術の開発	(28-30) 28-30 28-30	正確な加害獣の調査手法及び捕獲技術の確立を行うとともに、イノシシ成獣を捕獲しやすい箱わなを開発し捕獲方法について検討する。 東部・中部地域果樹園で加害獣を調査する。 中型獣捕獲手法をマニュアル化する。 成獣を捕獲しやすい箱わなを開発する。 成獣を捕獲しやすい餌設置方法を開発する。	森林育成科 (水井陽介・小松鷹介)	地域農業課	県 単

<新>: 新規課題 <助>: 国庫補助 <指>: 指定試験 <委>: 国庫委託 <交>: 国庫交付金 <受>: 受託 <共>: 共同研究

6 試験研究関連事業

研究機関	事業名	内容	担当
本所	原々種、原種の育成及び原種の配布	水稲、麦の原々種、原種の育成及び原種の配布	作物科
	採種ほの審査・指導	採種ほの審査・指導	作物科、植物保護科、病虫害防除所
	イチゴ無病苗の増殖・配布	イチゴ無病苗の原々苗の育成・増殖・配布	育種科
	肥料検査事業	肥料取締法に基づく肥料工場の立入検査と肥料の分析検査	土壌環境科
	植物遺伝資源の保存・管理	有用遺伝資源（種子）の保存・管理	本所
	出願品種選定栽培試験委託事業	登録出願品種（水稲、野菜、花き）の検定	本所
	農林大学学校教育業務	園芸課程学生の教育指導	本所
茶業研究センター	茶園施肥適正化推進事業	茶園の施肥量削減等の推進による環境にやさしい茶栽培体系の確立	生産環境科
	病虫害発生予察事業	基準ほ場での病虫害の発生調査、病虫害防除所に協力し、病虫害発生状況（予察情報）の提供	生産環境科
	農林大学学校教育業務	茶業課程学生の教育指導	茶業研究センター
果樹研究センター	遺伝資源の保存	果樹有用遺伝資源の保存	栽培育種科
	病虫害発生予察事業	病虫害の発生予測と適期防除の推進	生産環境科
	農林大学学校教育業務	果樹課程学生の教育指導	果樹研究センター
伊豆農業研究センター	園芸作物優良種苗の育成・増殖・配布	カーネーション、マーガレットの無病苗の増殖・配布 キヌサヤエンドウの優良系種子の配布	栽培育種科
	優良種苗供給確保事業	柑橘品種（ヒュウガナツ等）のウイルスフリー苗供給	栽培育種科
	わさび生産振興対策事業	ワサビ優良品種の育成、ワサビ関連病虫害防除技術の開発	わさび科

研究機関	事業名	内容	担当
森林・林業研究センター	森の力再生事業効果調査	森の力再生事業における整備効果のモニタリング調査	森林育成科
	抵抗性クロマツ種苗の供給	抵抗性クロマツ苗の生産に必要な種子の生産・供与	森林育成科
	花粉飛散量調査	スギ・ヒノキの雄花の着生調査による花粉飛散量の予測	森林育成科
	松くい虫発生予察調査	松くい虫薬剤散布事業の適期を裏付けるためのマツノマダラカミキリの脱出消長調査	森林育成科
	林業薬剤効果調査	(社)林業薬剤協会の委託を受けた松くい虫防除薬剤の有効性調査	森林育成科
	三保松原のマツ保全指導	三保松原におけるマツ材線虫病の微害化及び老齢大木管理手法の技術的指導	森林育成科 木材林産科
	しずおか優良木材認証審査指導	しずおか優良木材認証工場の工場審査のアドバイス及び技術指導	木材林産科
	農林大学学校教育業務	林業課程学生の教育指導	森林・林業研究センター

